

ITALJET

DRAGSTER



DRAGSTER 125
DRAGSTER 200

取扱説明書
(英語版の翻訳版)



Italjet は、本マニュアルの内容に誤りがあつた場合、一切の責任を負わないものとし、また、当社製品の開発に必要な変更を行う権利を保有します。本マニュアルに示した図は説明のために掲載しているもので、詳細を正確に反映していない場合があります。書面による許可を受けた場合を除き、本マニュアルの一部または全部の複製を禁じます。



DRAGSTER





目次

1.1 はじめに	5	2.6.b ステアリングロックの “Lock” 位置	20	3.2 モーターサイクルを使用する	32
1.2 重大な警告	5	2.7 左側ハンドルスイッチ	21	3.2.a 慣らし運転	32
1.3 本マニュアルで使用するシンボル	6	2.8 右側ハンドルスイッチ	22	3.2.b トラブルの原因と対策	32
1.4 安全なライディングとモーター サイクルの安全	7	2.8.a キルスイッチ	22	3.3 ライダーおよびタンデムライダーの 乗車／降車	33
1.5 アンチロックブレーキシステム - ABS	8	2.8.b エンジンスタートボタン	22	3.3.a 一般的な規則	33
1.6 一酸化炭素に関するリスク	8	2.9 スロットルグリップ	22	3.3.b ライダーの乗車	33
1.7 安全情報	9	2.10 フロントブレーキレバー	23	3.3.c タンデムライダーの乗車	34
1.7.a アクセサリー	9	2.11 リアブレーキレバー	23	3.3.d 降車	35
1.7.b モーターサイクルの輸送	9	2.12 燃料タンク	24	3.4 バックミラーの調整	35
1.7.c 折り畳み式のキー	9	2.12.a 給油	24	ミラー 35	
2.1 モーターサイクルのコンポーネント ..	10	2.13 燃料	25	4.1 エンジン始動	36
2.2 制御装置とインストルメント	13	2.13.a 燃料のタイプ	25	4.1.a スロットルグリップの操作	37
2.3 識別番号	14	2.13.b 触媒コンバーター	26	4.1.b ブレーキの操作	37
2.4 インストルメントパネル	15	2.14 外部装置と USB ソケット	26	4.1.c モーターサイクルの停車と エンジンの停止	38
2.4.a 表示灯と警告灯	15	2.14.a USB ソケットの使用	26	4.1.d エンジンの緊急停止	38
2.4.b デジタルインストルメント パネル	17	2.14.b シート下のストレージコンパ- トメント	27	4.1.e モーターサイクルの駐車	38
2.5 調整および表示設定	18	2.14.c サイドスタンド (オプション)	28	5.1 メンテナンスと定期点検	39
2.6 スイッチ類	19	2.14.d センタースタンド	29	5.1.a 定期メンテナンス	39
2.6.a イグニッションスイッチ	19	3.1 走行前の点検	30	5.1.b 油量の点検	43

5.1.c エンジンオイルとオイルフィルターの交換	43	5.1.u ヘッドライトの調整	60
5.1.d クーラントレベルの点検	45	6.1 モーターサイクルのお手入れと保管	61
5.1.e エンジンエアフィルターの清掃	46	6.1.a お手入れ	61
5.1.f トランスミッションエアフィルターの清掃	47	6.1.b 洗車	62
5.1.g スパークプラグの点検	48	6.1.c 保管	63
5.1.h タイヤとタイヤ空気圧の点検	48	6.1.d 長期保管	64
5.1.i タイヤの点検	49	7.1 諸元	65
5.1.l ブレーキパッドの摩耗の点検	50	8.1 推奨油脂類	69
5.1.m フロント／リアブレーキのフルードのレベル点検	52	9.1 保証書および整備手帳	70
5.1.n ブレーキフルードの交換	53	9.1.a 保証内容	71
5.1.o V ベルトの点検	53	9.1.b 保証の開始	71
5.1.p センタースタンドおよびサイドスタンド（オプション）の点検と注油	54	9.1.c 保証請求手順	71
5.1.q ショックアブソーバーのスプリングプリロード調整	54	9.1.d 保証条件	71
5.1.r ステアリングコラムの点検	55		
5.1.s バッテリーの点検と充電	55		
5.1.t ヒューズの点検／交換	57		



1.1 はじめに

Italjet のモーターサイクルファミリーへようこそ。

ご購入いただいた *Italjet* のモーターサイクルは、カテゴリー最高のモデルになるよう設計・製造されています。本マニュアルの内容は、モーターサイクルの適切な使用およびメンテナンス方法を記載しています。最高のパフォーマンスをお楽しみいただくために、本マニュアルの指示に注意し、従ってください。本マニュアルには、必要なメンテナンス作業の指示が含まれています。より専門的な修理やメンテナンス、またはより大がかりな作業は、専門のメカニックが適切な設備を使って実施する必要があります。このような作業は、必要な工具・設備を完備してお客様に最高のサービスを提供する *Italjet* の正規販売店にお任せください。

警告

最後に、本取扱説明書は、モーターサイクルの必要不可欠な部品であるとお考えいただき、モーターサイクルを譲渡される場合は一緒に引き渡してください。モーターサイクルには、最先端の各種システムおよびテクノロジーを使って設計製造されたコンポーネントが採用されています。

モーターサイクルの各部のコンディションを維持するために、本マニュアルの整備および保守点検表に従ってください。

1.2 重大な警告

DRAGSTER モデルは、オンロードで使用するためのモーターサイクルとして、保証契約が付帯しています。ただし、改造を行わず、指定されているメンテナンスを実施することが保証条件となります。

1.3 本マニュアルで使用するシンボル

特に重要な情報は、以下のシンボルで強調されています。

 危険	危険は、負傷するリスクがあることを示すために使用されます。負傷または死亡のリスクを避けるために、このシンボルを使って示されたすべての安全に関する指示に従ってください。
 警告	警告は、回避しない場合、死亡または重傷につながる恐れのある危険な状況を示します。
注意	注意は、モーターサイクルの損傷を避けるために取るべき特別な注意を示します。
<i>お知らせ</i>	<i>お知らせには、そのトピックに関する重要な情報が含まれます。</i>

1.4 安全なライディングと モーターサイクルの安全

以下に、モーターサイクルを安全に走行するための基本原則を示します。

- ライダーとタンデムライダーの安全が最優先です。目的地に無事に到着することを第一の目的としてください。
- ライダーとタンデムライダーは、モーターサイクル用に認定された適切なつなぎ、グローブ、シューズ、ヘルメットなどのライディングギアを着用する必要があります。
- ライダーは、走行する道路の最も広い視界を確保できる位置に着座する必要があります。
- モーターサイクルの運転には細心の注意を払い、交通および道路状況に合わせた速度で走行します。スムーズなライディングを心がけることで、危険を察知し、コーナリング中の進路をより正確に定めることができます。
- 常に警告標識に注意して、それらの表示に従って速度を調整します。
- 常に制限速度を守ってください。
- 常に路面の状態を評価し、それらに従って速度を調整します。

- 特に降雨時、またアスファルトの水溜まりを走行する場合は、速度を控え目にして走行してください。
- 濡れた路面、またはグリップが低い路面（積雪路、凍結路、泥路など）を走行する際は、速度を抑え、急制動や急なハンドル操作は避けてください。
- 前走車から安全な距離を取ってください。
- 追い越しをかける前に、追い越す車両の前方に障害物がないことを確認し、常にバックミラーを使って、後方から接近する車両がないことを確認してください。
- フロントブレーキとリアブレーキの両方を使って制動してください。これにより、モーターサイクルの安定性を維持することができます。
- 疲労や眠気を感じたら、停止して休憩を取ってください。
- 下り坂でブレーキを多用すると、ブレーキパッドが過熱し、制動効率が低下する恐れがあります。
- 下り坂を走行する場合、エンジンを停止しないでください。
- タンデムライダーを乗せて走行する場合、前走車との安全車間距離を大きく取り、制動時、およびコーナリングや追い越しをする場合にはタンデムライダーの体重を考慮してください。

- ライダーとタンデムライダーの位置はモーターサイクルのコントロールに重要です。
- モーターサイクルのコントロールを維持するために、走行中、ライダーは両手でハンドルバーを握り、両足をフットレストに載せておく必要があります。
- タンデムライダーは、常にライダーにしっかりと抱きつか、グラブバーをしっかりと握り、両足をフットペグに載せておく必要があります。両足がフットペグに十分に届かないタンデムライダーは乗車させないでください。
- アルコールやドラッグの影響があるときは、絶対に運転しないでください。
- このモーターサイクルは、オンロード専用に設計されています。オフロードでの使用には適しません。
- 紐やロープを使って荷物を固定しないでください。必ずこのモーターサイクルのタイプに適した認定を受けたバッグを使用してください。
- ライダー、タンデムライダーおよび荷物の合計重量が、155kg（342lb）の最大積載重量を超えてはなりません。いかなる場合でも、荷物の重量は 5kg（11lb）を超えてはなりません。

1.5 アンチロックブレーキシステム - ABS

ABS は、電子機械式ブレーキ補助システムです。

このシステムは、制動中にホイールがロックするのを防ぎ、滑りやすい路面、濡れた路面や砂が浮いた路面でのモーターサイクルの安定性を維持することをサポートします。

グリップが悪い条件下で、ABS システムが介入すると制動距離は伸びますが(小石があったり、滑りやすい路面などで)、そのような路面での最短の制動距離を約束します。

- ABS システムは、10km/h 未満では作動しません。

制動中に、このシステムが作動すると、ブレーキレバーが脈動するのが感じられます。この脈動を感じても、レバーを握る力を緩めないでください。システムがキャンセルされる恐れがあります。

さらに、ABS システムが装備されているからといって、慎重さを欠く行動は慎んでください。

- ABS システムが正しく機能するように、必ず推奨されているブレーキパッドおよびタイヤを使用してください。

1.6 一酸化炭素に関するリスク

排気ガスには、無色無臭の気体である一酸化炭素が含まれます。一酸化炭素を吸い込むと、気を失ったり、死亡に至る場合があります。

完全に密閉された部屋、または換気が悪い部屋でエンジンを始動すると、呼吸する空気に危険な量の一酸化炭素が含まれる可能性があります。絶対に、ガレージやその他の密閉された場所でエンジンを始動しないでください。



一酸化炭素は有毒な気体です。吸い込むと、気を失ったり、死亡に至る場合があります。一酸化炭素に晒される可能性のある場所や、活動は避けてください。

1.7 安全情報

1.7.a アクセサリー

モーターサイクルに適したアクセサリーを選択することが、非常に重要です。必ず、**Italjet** の正規販売店が販売する純正アクセサリーをご利用ください。これらのアクセサリーは、モーターサイクルで試験され、認定されています。

電装アクセサリーを取り付ける場合、注意が必要です。電装アクセサリーの容量がモーターサイクルの電子システムの容量を超えると、電子システムに不具合が発生する恐れがあります。

1.7.b モーターサイクルの輸送

モーターサイクルを輸送する場合、以下の指示を守ってください。

- すべての固定されていない物をモーターサイクルから取り外してください。
 - フロントホイールを進行方向に真っ直ぐに向けてトレーラーまたはトラックの荷台に載せて、動かないように適切な方法で固定します。
 - フレームなど、モーターサイクルの頑丈なコンポーネントに適切なロープまたはアンカーストラップをかけて固定します。ウインカーなど、破損する可能性があるコンポーネントにはかけないでください。
- 輸送中に、ストラップが塗装パーツに擦れない場所を注意して選んでください。
- 輸送中にモーターサイクルが大きく揺れるのを防ぐため、可能であればサスペンションが多少圧縮した状態にします。

1.7.c 折り畳み式のキー

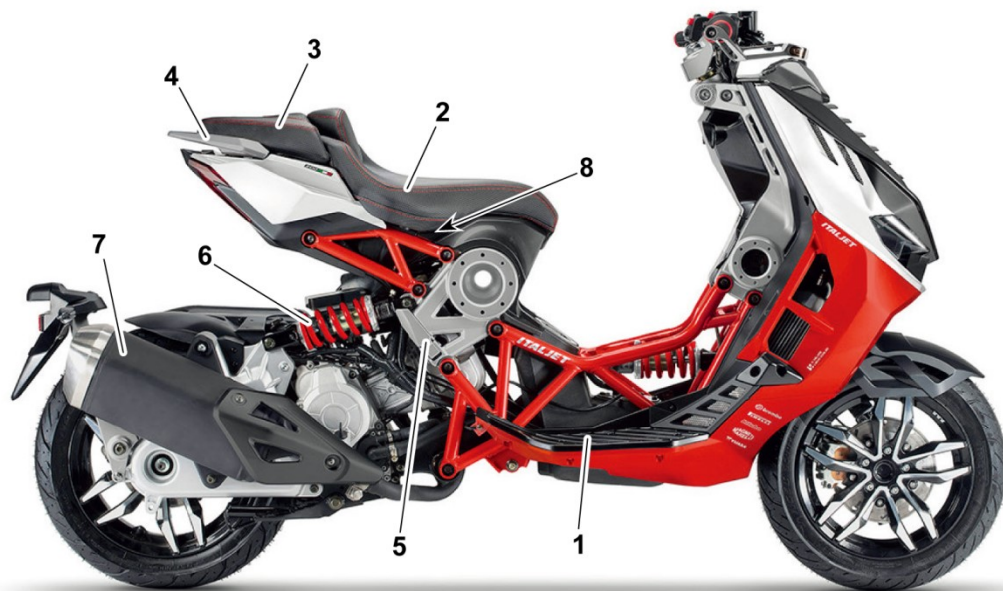
Dragster のキー(1)は折り畳み式です。破損を避けるため、モーターサイクルで走行している間は、キーのハンドル(1)を直角に曲げておくことを推奨します。



2.1 モーターサイクルの コンポーネント

右側

1. ライダー用フットレスト
2. ライダーズシート
3. タンデムシート
4. タンデムライダー用グラブバー
5. タンデムライダー用フットペグ
6. リアショックアブソーバー
7. エキゾーストマフラー
8. グローブボックス



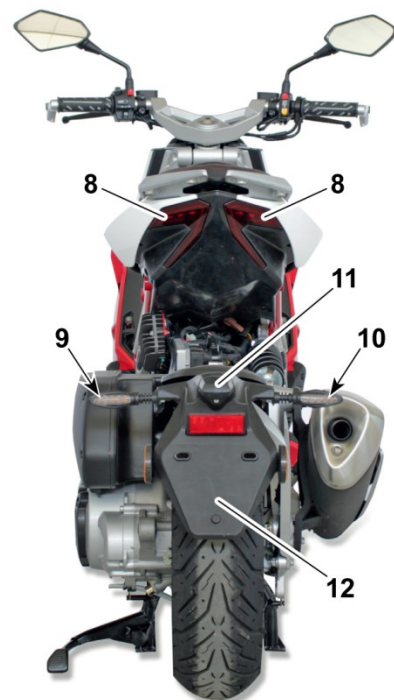
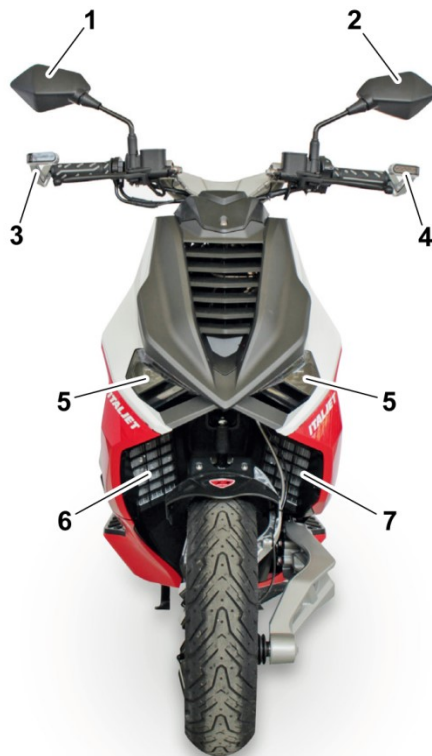
左側

1. フロントホイール
2. フロントブレーキディスク
3. フロントブレーキキャリパー
4. フロントシングルアーム
5. シングルアームショックアブソーバー
6. シート下ストレージコンパートメント用ロック
7. 電圧レギュレーター
8. エンジン
9. エアフィルター
10. センタースタンド
11. トランスミッションエアフィルター
12. リアブレーキディスクおよびキャリパー
13. リアホイール
14. 燃料タンクキャップ
15. 燃料タンク



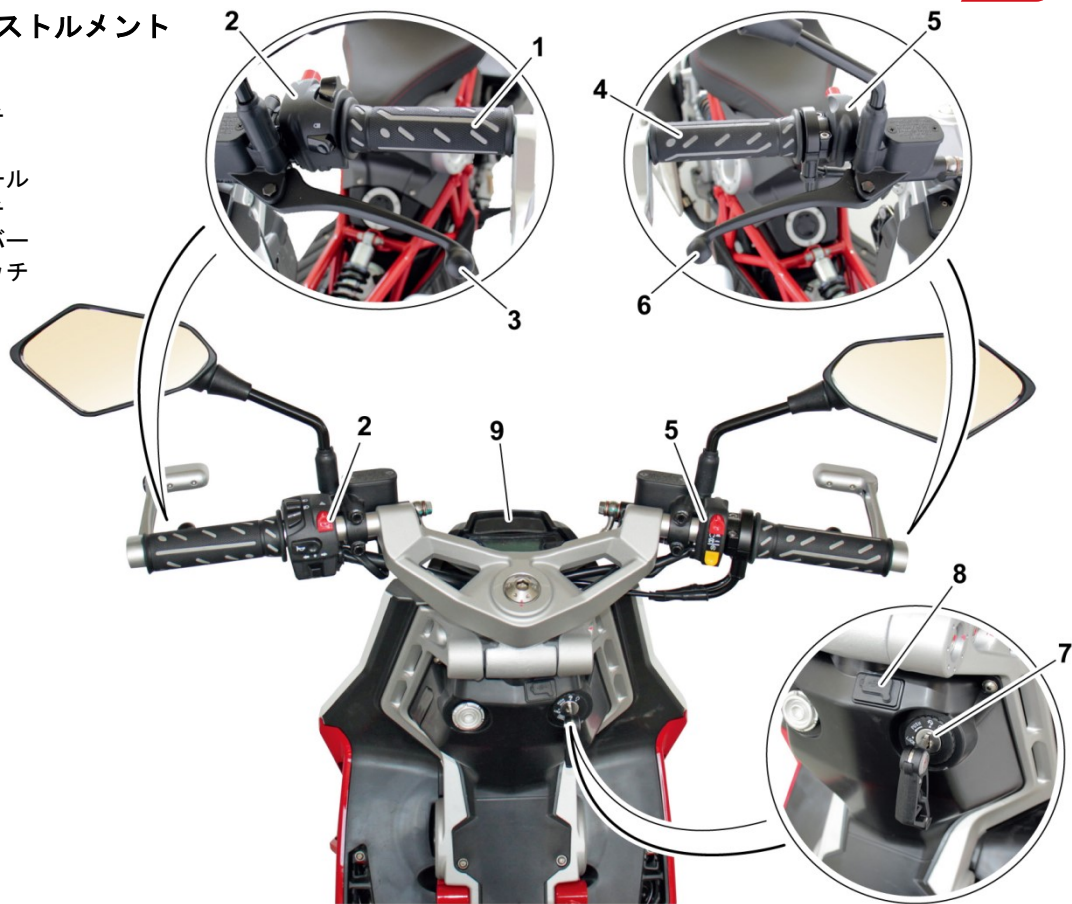
前／後

1. 右側バックミラー
2. 左側バックミラー
3. ウィンカー、右側
4. ウィンカー、左側
5. ヘッドライト
6. 右側ラジエター
7. 左側ラジエター
8. テールランプ
9. ウィンカー、左側
10. ウィンカー、右側
11. ライセンスプレートライト
12. ライセンスプレートホルダー



2.2 制御装置とインストルメント

1. 左側グリップ
2. 左側ハンドルスイッチ
3. リアブレーキレバー
4. スロットルコントロール
5. 右側ハンドルスイッチ
6. フロントブレーキレバー
7. イグニッションスイッチ
8. USB ソケット
9. デジタルインストルメントパネル



2.3 識別番号

エンジン番号は、クランクケースの後部上面に打刻されています。**車台番号**は、シート下のフレームに打刻されています。

スペアパーツを発注する際、またはモーターサイクルについての情報を照会する場合には、このフレームに打刻された車台番号をお知らせください。また、車台番号を本マニュアルに記入しておいてください。

エンジン番号



2

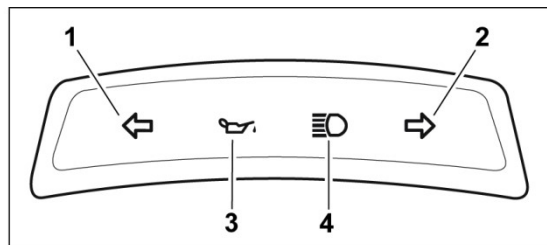
モーターサイクルの車台番号



2.4 インストルメントパネル

2.4.a 表示灯と警告灯

- 1) 左側ウインカー表示灯
- 2) 右側ウインカー表示灯
- 3) エンジン油圧低下警告灯
- 4) ハイビーム警告灯
- 5) 冷却水温度上昇警告灯
- 6) 燃料残量低下警告灯
- 7) ABS 警告灯
- 8) エンジン故障警告灯



左側ウインカー表示灯 “←”

左側ハンドルスイッチのウインカースイッチを使って、左側ウインカーを作動させると、この表示灯が点滅します。

右側ウインカー表示灯 “→”

左側ハンドルスイッチのウインカースイッチを使って、右側ウインカーを作動させると、この表示灯が点滅します。

エンジン油圧低下警告灯 “ ”

イグニッションキーを“ON”の位置に回すと点灯し、エンジンの運転中には消灯します。エンジンの運転中もこの警告灯が点灯したままになる、また

は点灯した場合、エンジンを停止して、本マニュアルの説明に従って油量を点検してください。または、正規販売店に連絡して、故障点検を実施してください。

警告

油圧が低下した状態でモーターサイクルを使用しないでください。エンジンが故障する恐れがあります。

ハイビーム警告灯 “ ”

この警告灯は、左側ハンドルスイッチにあるスイッチを使ってハイビームに切り替えると点灯します。

冷却水温度上昇警告灯 “ ”

この警告灯は、冷却水の温度が許容上限を超えると点灯します。

警告

モーターサイクルを停車して、エンジンを停止してください。冷却水の温度が高い状態でモーターサイクルを使用しないでください。エンジンが故障する恐れがあります。

- 冷却水の温度が下がるまで待機し、本マニュアルの説明に従って冷却水の量を点検してください。または、正規販売店に連絡して、故障点検を実施してください。

燃料残量低下警告灯 “ ”

イグニッションキーを回すと、この警告灯が数秒間点灯してから、消灯します。モーターサイクルで走行中にこの警告灯が点灯したら、燃料がリザーブレベル（2 リッター）まで低下し、航続距離が限られていることを示します。できるだけ早く給油してください。

ABS 警告灯 “ ”

イグニッションキーを回すと、ABS コントロールユニットが自己診断を実行し、警告灯が数秒間点灯してから消灯します。これは、ABS システムに故障がないことを示します。一方、モーターサイクルの走行中にこの警告灯が点灯した場合、ABS ブレーキシステムに不具合があることを示します。

- 停車して、エンジンを停止します。
- 数分待機してから、エンジンを始動します。ABS 警告灯が点灯した場合、最寄りの *Italjet* の正規販売店に連絡して、ABS システムの点検を実施してください。

エンジン故障警告灯 “ ”

イグニッションキーを回すと、エンジンコントロールユニットが自己診断を実行し、警告灯が数秒間点灯してから消灯します。これは、エンジンに故障がないことを示します。一方、エンジンの運転中にこの警告灯が点灯した場合、エンジンまたはインジェクションシステムに不具合があることを示します。

- 停車して、エンジンを停止します。
- 数分待機してから、エンジンを始動します。エンジン故障警告灯が点灯した場合、最寄りの *Italjet* の正規販売店に連絡して、自己診断システムの点検を実施してください。

2.4.b デジタルインストルメント パネル

- 1) スピードインジケーター（スピード
メーター）km/h - mi/h
- 2) 時計
- 3) 燃料計
- 4) オドメーター／トリップメーター
（km/mi）、合計走行時間／区間走行
時間インジケーター
- 5) 定期メンテナンス時期超過警告灯
- 6) “モード” ボタン
- 7) “セット” ボタン

スピードメーター（1）

モーターサイクルの走行速度を表示
します。設定した測定単位に応じて、
km/h または mi/h で表示することが
できます。

時計（2）

時刻を表示します。24 時間表示または
12 時間表示に設定することができます。

燃料計（3）

燃料タンク内の燃料のレベルを表示
します。バーが全部表示されている状
態（3a）が満タンを示し、バーが表示
されない状態（3）が燃料の最低レベ
ルを示し、警告灯  が点灯します。



オドメーター／トリップメーター （km/mi）、合計走行時間／区間走行 インジケーター（4）

ディスプレイのこの部分には、オド
メーター（km/mi）と、トリップメ
ーター（TRIP A または TRIP B、km/mi）
および対応する走行時間が表示され
ます。

定期メンテナンス時期超過警告灯（5）

この警告灯は、メンテナンス実施時期
まで 100km になると点滅します。
メンテナンス時期の距離を超過する
と、リセットするまでこの警告灯は点
灯したままになります。

メンテナンスの実施後、オドメーター
を表示した状態で、“モード” ボタン（6）
を 10 秒以上長押しします。これで、
メンテナンス警告灯が消灯します。

モードボタン（6）

“モード” ボタンを使って、ソフトウェ
アの機能をスクロールできます。

セットボタン（7）

“セット” ボタンは、測定単位を設定し
たり、トリップメーターをリセットし
たりするために使用します。

2.5 調整および表示設定

⚠ 危険

すべての調整は、モーターサイクルを停車した状態で行う必要があります。



Km/mi 設定および時計の 24 時間／12 時間表示

- オドメーターが表示されるまで“**モード**”ボタンを繰り返し押します。
- “**セット**”ボタンを 10 秒以上押したまま、測定単位を km から mi（マイル）に、時計の表示形式を 24 時間から 12 時間に、またはそれぞれの逆に切り替えます。トリップメーターは両方ともリセットされます。

時刻設定

- “**モード**”ボタンと“**セット**”ボタンを同時に 2 秒以上長押しします。時と分が点滅します。
- “**モード**”ボタンを押すと時の数値が大きくなり、“**セット**”ボタンを押すと小さくなります。
- “**モード**”ボタンと“**セット**”ボタンを同時に 2 秒以上長押しします。これで時と分が確定します。

“トリップ A”または“トリップ B”の走行距離と区間走行時間の設定

- “トリップ A”または“トリップ B”が表示されるまで“**モード**”ボタンを繰り返し押します。“**セット**”ボタンを短く押すと、そのトリップの走行距離 (km/mi) または区間走行時間を切り替えることができます。
- トリップ走行距離および区間走行時間をリセットするには、“**セット**”ボタンを 2 秒以上長押しします。これで、値がリセットされ、新たな測定が開始されます。

2.6 スイッチ類

2.6.a イグニッションスイッチ

イグニッションスイッチには 3 つの位置があります。

↻ 電子システム = オン位置
(キーを抜き取れません)

❌ 電子システム = オフ位置
(キーを抜き取れます)

“**lock**” ステアリングロックの “Lock”
位置 (キーを抜き取れます)

- 電子システム = オフ位置 “❌”

キーを “❌” 位置に回すと、エンジンが停止し、電子システムがオフになり、イグニッションスイッチからキーを抜き取ることができます。

- 電子システム = オン位置 “↻”

オフ位置 “❌” (キーの抜き取り位置) から、キー (1) を時計回りに “↻” 位置に回します。ライトが点灯し、ディスプレイが表示され、エンジンを始動できます。



2.6.b ステアリングロックの “Lock” 位置

ステアリングロックは、以下のように操作します。

- ハンドルバーを左側いっぱいに切ります。
- キー（1）をイグニッションスイッチ  に挿入します。
- キー（1）を押し込みながら反時計回りに“**Lock**”位置に回します。
- キー（1）をイグニッションスイッチから抜き取ります。

ステアリングロックを解除するには、逆の手順を行います。





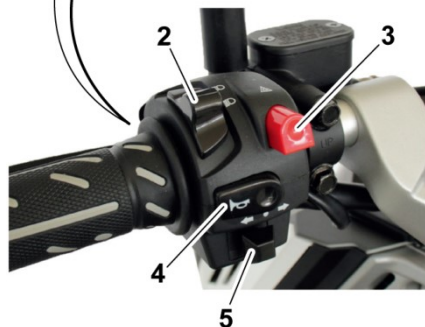
2.7 左側ハンドルスイッチ

左側ハンドルスイッチには、以下のスイッチ類が配置されています。

1. 
パッシングスイッチ
2. 
ロービーム／ハイビーム切り替えスイッチ
3. 
ハザードスイッチ
4. 
ホーンスイッチ
5. 
ウインカースイッチ

パッシングスイッチ“”

ロービームを使用しているときにスイッチ（1）を押すと、ハイビームが点灯しパッシングできます。



ロービーム／ハイビーム切り替えスイッチ “ / ”

スイッチ（2）の位置に応じて、ロービームまたはハイビームが点灯します。

 ロービーム点灯

 ハイビーム点灯

ハザードスイッチ “”

ハザードスイッチ（3）を押すと、すべてのウインカーが同時に点滅し、インストルメントパネルの“”と“”が点滅します。

お知らせ：ハザードは、モーターサイクルが停車していることを他の車両に警告するためだけに使用してください。エンジンを停止した状態でハザードを使用し続けると、バッテリー上がりの原因になります。

ホーンスイッチ “”

ボタン（4）を押すと、ホーンが鳴ります。

ウインカースイッチ “”

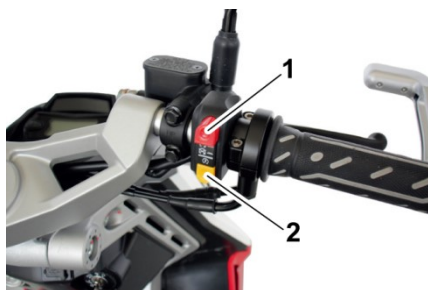
スイッチ（5）を“”側に押すと、左側のウインカーが点滅し、スイッチ（5）を“”側に押すと右側のウインカーが点滅します。

指を離すと、スイッチはセンター位置に戻ります。点滅しているウインカーをキャンセルするには、センター位置でスイッチを 1 回押します。

2.8 右側ハンドルスイッチ

右側ハンドルスイッチには、以下のスイッチ類が配置されています。

1.  キルスイッチ
2.  エンジンスタートボタン



2.8.a キルスイッチ

警告

キルスイッチ (1) を押すと、エンジンが停止します。緊急時のみ使用してください。

キルスイッチが “” 位置になっている場合、エンジンは始動しません。エンジンの運転中にこの位置にすると、エンジンは停止します。

キルスイッチが “” 位置になっている場合、エンジンは始動し、運転します。

2.8.b エンジンスタートボタン

イグニッションキーが “” 位置で、キルスイッチ (1) が “” 位置の状態、ブレーキレバーを握りながらエンジンスタートボタン (2) を押すと、エンジンが始動します。

2.9 スロットルグリップ

スロットルグリップ (1) は、ハンドルバーの右側にあります。

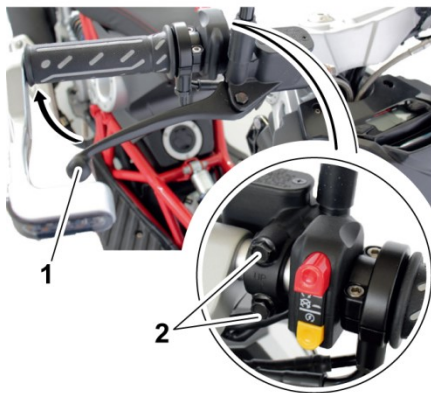


2.10 フロントブレーキレバー

フロントブレーキレバー（1）は、ハンドルバーの右側にあります。ブレーキレバーを操作すると、ブレーキスイッチによって、リアのブレーキランプが点灯します。ブレーキをかけるには、レバーをスロットルグリップ側に引きます。ハンドルスイッチの位置は、固定ボルト（2）を緩めて調整できます。

⚠ 警告

調整後、忘れずにボルト（2）を締め付けてください。

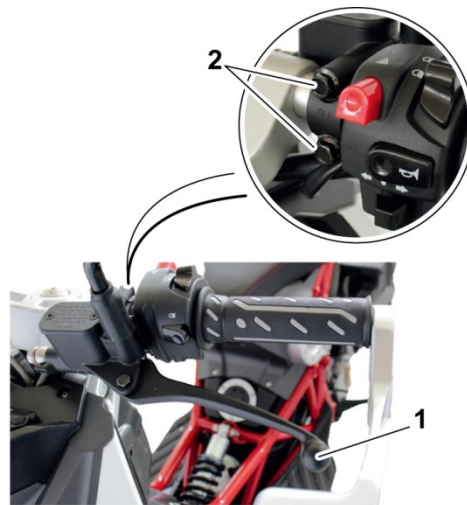


2.11 リアブレーキレバー

リアブレーキレバー（1）は、ハンドルバーの左側にあります。ブレーキレバーを操作すると、ブレーキスイッチによって、リアのブレーキランプが点灯します。ブレーキをかけるには、レバーをグリップ側に引きます。ハンドルスイッチの位置は、固定ボルト（2）を緩めて調整できます。

⚠ 警告

調整後、忘れずにボルト（2）を締め付けてください。



2.12 燃料タンク

⚠ 危険

ガソリンは、きわめて引火性が高く、一定の条件が揃うと爆発する恐れがあります。給油する場合、または燃料を保管する場合は、必ずエンジンを停止して、近辺で喫煙したり、火炎や火花を近付けないでください。

2.12.a 給油

- エンジンを停止します。
- ロックカバー (1) を引き上げます。
- イグニッションキー (2) を挿入して、矢印 “A” 方向に 1/4 周回して、キャップ (3) を取り外します。
- タンクに燃料を給油します。

⚠ 警告

フィラーネックの下端を超えて給油しないでください。燃料が溢れ出した場合は、すぐにウエスで拭き取ってください。ガソリンは、きわめて引火性が高いだけでなく、塗装面やプラスチック表面を傷めます。

- 取り外しの手順を逆に行って、キャップ (3) を取り付け、イグニッションキーを矢印 “B” 方向に回してから、イグニッションキー (2) を抜き取り、ロックカバー (1) を下げます。

お知らせ：イグニッションキーがロックに挿入されていないと、キャップ (3) を取り付けることはできません。イグニッションキー (2) は、キャップ (3) を正しく閉じた状態でのみ抜き取ることができます。





警告

給油後に、燃料タンクのキャップが正しく取り付けられていることを確認してください。燃料が漏れると、火災の原因になります。

2.13 燃料

警告

ガソリンには毒性があり、負傷または死亡の原因となります。ガソリンは注意して取り扱ってください。絶対にガソリンが流れるホースを口で吸引しないでください。ガソリンを飲み込んだ場合、またはガソリン蒸気を大量に吸い込んだ場合、またはガソリンが目に入った場合、すぐに医療処置を受けてください。

ガソリンが肌に付着した場合、石鹸と水で洗い流してください。衣類にガソリンがこぼれた場合、着替えてください。

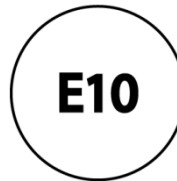
エンジンは、オクタン価 95 以上の無鉛ガソリンを使用するように設計されています。

ノッキングが発生する場合は、ブランドを変えてみるか、より高いオクタン価のガソリンを試してみてください。

推奨燃料：

無鉛ガソリン
(E10 使用可能)

オクタン価 (RON) :
95



お知らせ：

- これらの表示は、モーターサイクルに推奨される燃料の欧州規格 (EN228) です。
- 給油ノズルに同じ規格表示があることを確認してください。

2.13.a 燃料のタイプ

エタノール混合ガソリンには複数の種類があります。エタノールの混合比率が 10% を超えないガソリン (E10) は使用できます。

フューエルシステムを損傷したり、モーターサイクルの性能に影響するため、**Italjet** は、メタノール混合ガソリンの使用を推奨しません。

警告

必ず無鉛ガソリンを使ってください。有鉛ガソリンを使うと、エンジン内部の部品（バルブやピストンリングなど）およびエキゾーストシステムに重大な損傷を与える恐れがあります。

2.13.b 触媒コンバーター

有害な排気ガスを低減するために、エキゾーストシステムには触媒コンバーターが搭載されています。

警告

走行後、エキゾーストシステムは高温になっています。火災や火傷の危険を防ぐために、以下を守ってください。

- 草や燃えやすいものなど、火災の原因になる可能性のある物のそばにモーターサイクルを駐車しないでください。
- 歩行者や子供が高温になったエキゾーストシステムに触る危険がない場所にモーターサイクルを駐車してください。

- メンテナンス作業を開始する前に、エキゾーストシステムの温度が下がっていることを確認してください。
- 数分間でも、エンジンをアイドリングしないでください。長時間アイドリングすると、熱が蓄積される原因となります。

2.14 外部装置と USB ソケット

警告

USB ソケットに接続されている外部装置は、エンジンを停止した状態では使用しないでください。また、消費電力が 12W(1A)を超えてはなりません。これを超えるとヒューズが切れたり、バッテリーが上がる恐れがあります。

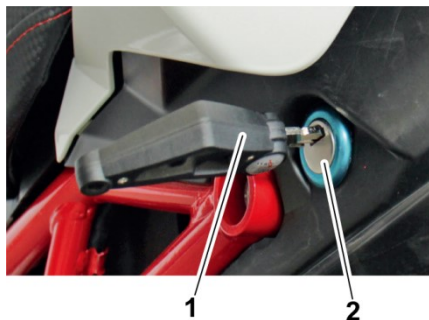
2.14.a USB ソケットの使用

- カバー (1) を外します。
- 外部装置／USB ケーブルをソケット (2) に接続します。
- ソケットを使用しないときは、カバーを正しく取り付けておいてください。

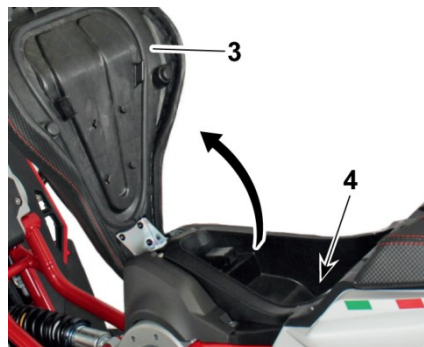


2.14.b シート下ストレージコンパートメント

- モーターサイクルをサイドスタンドまたはセンタースタンドで立てます。
- イグニッションキー(1)をロック(2)に挿入し、シートロックが解除されるまで回します。



- シート (3) を開けて、コンパートメントにアクセスします (4)。
- シートを閉めて、ロックがかかるように押し下げます。



お知らせ： シートロックを解除したら、イグニッションキーをロックから抜き取ることができます。

2.14.c サイドスタンド (オプション)

注意

サイドスタンドは、モーターサイクルのみの重量を支持するように設計されています。

サイドスタンドで体重を支えるようにモーターサイクルに着座しないでください。サイドスタンドが破損して、重傷を負う恐れがあります。

注意

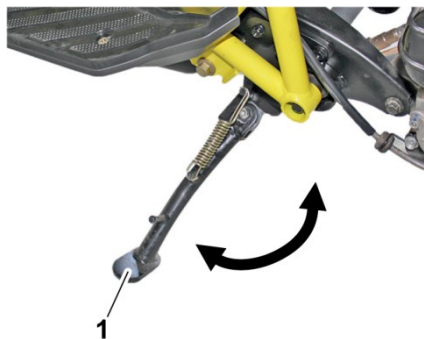
必ずライダーが降車してから、モーターサイクルをサイドスタンドで立ててください。

注意

サイドスタンドにはセンサーが設置されており、サイドスタンドを下げた状態ではエンジンを始動できません。

エンジンの運転中にサイドスタンドを下げると、エンジンが停止します。

サイドスタンドは、左側のフレームに取り付けられています。サイドスタンド(1)は、モーターサイクルを直立させた状態で上げ下げしてください。



⚠ 危険

サイドスタンドを下げた状態で走行しないでください。

サイドスタンドが上がった位置に留まらない場合、最寄りの *Italjet* の正規販売店で修理してください。

サイドスタンドとサイドスタンドが下がっている場合にエンジンの始動を禁止するサイドスタンドセンサーが正しく機能するか定期的に点検してください。

2.14.d センタースタンド

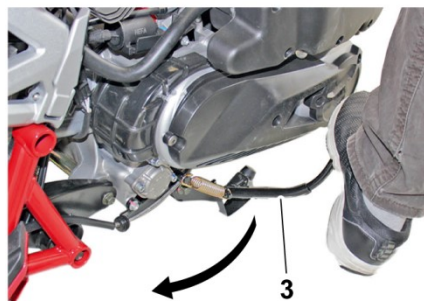
- 左側のハンドルバーのグリップ (1) と、左側のタンデムライダー用グラブバー (2) を握ります。
- センタースタンド (4) のペダル (3) を右足で踏み込むと同時に、完全にセンタースタンドで立つまでモーターサイクルを後に向かって引き上げます。

注意

モーターサイクルをセンタースタンドで立てている状態で乗車すると、センタースタンドに体重がかかって危険です。

モーターサイクルをセンタースタンドから下ろすには、以下の手順に従います。

- 左側のハンドルバーのグリップ (1) と、左側のタンデムライダー用グラブバー (2) を握ります。
- 足をスタンドの前方に置き、センタースタンドが外れるまでモーターサイクルを前方に押します。センタースタンドは自動的に跳ね上がります。



3.1 走行前の点検

毎回、モーターサイクルを使用する前に、安全に走行できる状態であるか点検を行います。必ず、本ユーザーマニュアル／メンテナンスマニュアルに記載されている点検およびメンテナンス手順と点検時期を守ってください。

警告

モーターサイクルの適切な点検やメンテナンスを怠ると、事故またはモーターサイクルの損傷のリスクが高まります。異常が感じられた場合は、モーターサイクルを使用しないでください。本マニュアルの指示に従っても問題を解消できない場合は、**Italjet** の正規販売店で点検を受けてください。

モーターサイクルを使用する前に、次の項目を点検してください。

点検項目	点検内容
燃料	- 燃料タンクの燃料残量を点検します。 - 必要に応じて給油します。 - 燃料回路に漏れがないか点検します。
エンジンオイル	- エンジンの油量を点検します。 - 必要に応じて、推奨オイルを規定量まで補充します。 - エンジンからのオイル漏れがないか点検します。
ファイナルトランス ミッションオイル	- トランスミッションケースからのオイル漏れがないか点検します。
クーラント	- リザーバータンクのクーラントレベルを点検します。 - 必要に応じて、クーラントを補充します。 - 冷却システムに漏れがないか点検します。
ホイールとタイヤ	- 損傷がないか点検します。 - タイヤの状態と残溝を点検します。 - 空気圧を点検します。



点検項目	点検内容
ブレーキ	- ブレーキの作動状態を点検します。 - ブレーキレバーを握ったときに柔らかい／スポンジな感じがする場合は、Italjet の正規販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。 - ブレーキパッドの摩耗を点検します。 - 必要に応じて交換します（交換作業は、Italjet の正規販売店にご依頼ください）。 - タンクのフルードの量を点検します。必要に応じて補充します（補充作業は、Italjet の正規販売店にご依頼ください）。 - 油圧システムに漏れがないか点検します。
サイドスタンド、 センタースタンド	- スムーズに動作することを確認します。 - 必要に応じて、ピボットポイントに注油してください。
インストルメント、 ライト、ウインカー、 スイッチ	- ライトとウインカーの作動状態を点検します。
サイドスタンド スイッチ	- イグニッション回路遮断システムの作動を確認します。 - このシステムが正常に作動しない場合、Italjet の正規販売店で点検を受けてください。

3.2 モーターサイクルを使用する

お知らせ: モーターサイクルの使用に慣れていない場合、走行する前に「制御装置とインストルメント」のセクションを必ずお読みください。

3.2.a 慣らし運転

最初の 1000km では、以下の規則を厳密に守ってください。これらに従わないと、モーターサイクルの製品寿命および性能に決定的な悪影響を与える恐れがあります。

- 走行を開始する前に、低回転でエンジンを暖機してください。
- 急加速を避け、エンジンを高回転域で運転しないでください。
- エンジンの暖機が完了するまで、控え目な速度で走行してください。
- 前後のブレーキを繰り返し操作して、パッドとディスクの慣らしをしてください。
- 長時間にわたって同じ速度で走行するのは避けてください。
- 休憩を入れないで長距離を走行するのは避けてください。

3.2.b トラブルの原因と対策

以下に、一般的なトラブルと、それらの原因および対策を示します。

エンジンが始動しない

- 始動手順が間違っている。「エンジン始動／停止」のセクションの指示に従ってください。
- サイドスタンドが下がっている。

エンジンの始動が鈍い

- スパークプラグへのカーボン／オイル等の付着、不良：交換

エンジンが始動するが、運転が不安定

- スパークプラグへのカーボン／オイル等の付着、不良：交換

スパークプラグがすぐに汚れる

- スパークプラグが合っていない：交換

エンジンのパワー低下

- エアフィルターが汚れている：清掃する

ブレーキが適切に作動しない

- パッド摩耗：正規販売店で交換

注意

その他、すべての問題については、**Italjet** の正規販売店にお問い合わせください。

3.3 ライダーおよびタンデム ライダーの乗車／降車

3.3.a 一般的な規則

以下は、ライダーおよびタンデムライダーの負傷またはモーターサイクルの損傷を防ぐための重要な安全情報です。必ずお読みください。

モーターサイクルの乗降は、必ずセンタースタンドをかけた状態で、手には何も持たず、障害物がない状態でモーターサイクルの左から行います。サイドスタンドが装備されている場合、ライダーは、サイドスタンドを下げた状態で乗車することができます。

ライダーは、先に乗車／後に降車し、タンデムライダーの乗降中にはモーターサイクルの安定性を確保する必要があります。

モーターサイクルから飛び降りたり、脚を伸ばしたまま降車しないでください。必ず、関連するセクションで説明されている手順を行って、降車してください。

3.3.b ライダーの乗車

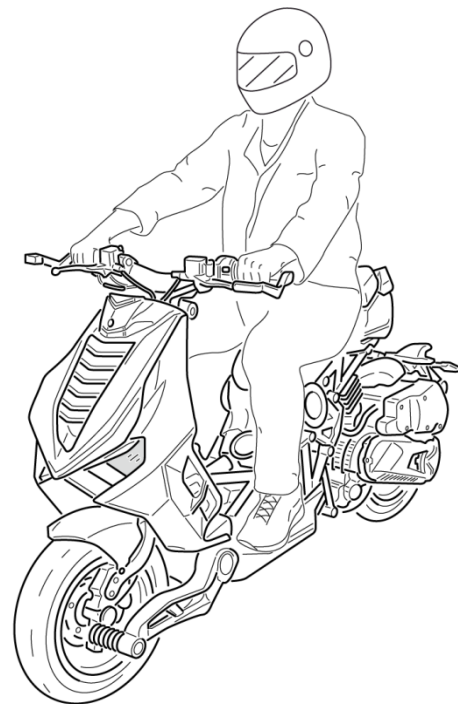
センタースタンドをかけます。
サイドスタンドが装備されている場合、下げた位置のままにします。

- モーターサイクルの左側から、ハンドルバーの左右のグリップを握り、右足を上げてシートをまたぎます。
- 両足を地面につけた状態でモーターサイクルに着座します。サイドスタンド（装備車の場合）を使用している場合は、サイドスタンドに体重がかからないようにモーターサイクルを直立させます。

警告

両足が地面に届かない場合は、右足を地面につけて、バランスがシフトした場合に、すぐに左足をつけられるように準備しておきます。

- 左足で、サイドスタンドを完全に跳ね上げます（装備車の場合）。
- 関連するセクションの説明に従って発進します。



3.3.c タンデムライダーの乗車

- 関連するセクションの説明に従って、ライダーが乗車します。エンジンは始動しません。
- タンデムライダーは、フットペグ(1)を展開する必要があります。

警告

乗車したライダーが、タンデムライダー用のフットペグを展開したり、展開しようと試みたりしてはなりません。モーターサイクルのバランスを崩す恐れがあります。

- 右脚を上げて乗車します。このとき、モーターサイクルとライダーのバランスを崩さないように慎重に行います。



3.3.d 降車

- モーターサイクルを停車して、エンジンを停止します。



警告

モーターサイクルは、表面が固く水平な場所に駐車してください。

- 両足を地面につけます。
- 関連するセクションの説明に従って、エンジンを停止し、電子システムをオフにします。
- 左足で、サイドスタンドを完全に下ろします（装備車の場合）。
- 先に、タンデムライダーが右脚を上げて左側に降車します。
- サイドスタンドで立つまでモーターサイクルを左側に傾けます（装備車の場合）。-両手でハンドルバーのグリップをしっかりと握ったまま、右脚を上げて左側に降車します。

3.4 バックミラーの調整

関連するセクションの説明に従って、モーターサイクルに着座します。両側のミラー（1）を直接動かして、着座したライダーが後方の道路を視認できるよう調整します。



4.1 エンジン始動

関連するセクションの説明に従ってモーターサイクルに乗車してから、以下の手順でエンジンを始動します。

お知らせ：サイドスタンドが下がっていると、エンジンは始動しません。

- イグニッションキー（1）をイグニッションスイッチに挿入し、“”位置に回します。



- 警告灯 “” が数秒間点灯してから消灯します。また、“” および “” 警告灯はエンジンを始動するまで点灯したままになります。

- スロットルグリップ（2）が完全に戻った位置になっていることを確認します。
- 前後いずれかのブレーキレバーを引きます。
- エンジンスタートボタン（3）を押して、エンジンが始動したらすぐに放します。



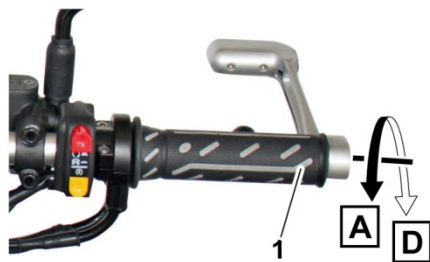
お知らせ：“ABS” 警告灯は、走行速度 10km/h (6mi/h) に達するまで点灯したままになり、その速度を超えると消灯します。

お知らせ：エンジンの温度が上昇していない状態では、高回転まで回さないでください。オイルの温度が上昇し、潤滑が必要なポイントに循環するまで回転数を抑えて走行してください。



4.1.a スロットルグリップの操作

- 引いていたブレーキレバーを放すと同時に、スロットルグリップ（1）を回します。速度はスロットルグリップの回転角度と直接比例しています。スロットルグリップを“A”方向に回すとモーターサイクルは加速し、“D”方向に回すと減速します。



4.1.b ブレーキの操作

- より短距離で停止するために、前後のブレーキを同時に使用することをお勧めします。
- スロットルグリップ（1）を戻し、目的の制動力に合わせて、両方のブレーキレバー（2）を徐々に力を増すようにして引きます。

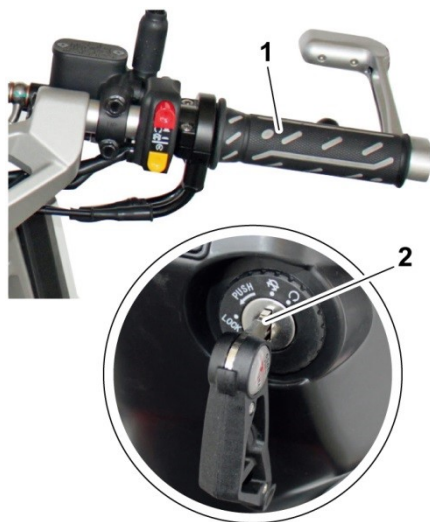


警告

急なブレーキ操作は避けてください。また、車体を傾けた状態で制動すると、転倒する恐れがあります。状況によっては、フロントまたはリアブレーキを個別に使用の方がよい場合があります。特に、滑りやすい路面では、フロントブレーキの操作は慎重に行ってください。ブレーキを正しく使用しないと、重大な事故につながる恐れがあります。

4.1.c モーターサイクルの停車とエンジンの停止

- スロットルグリップ (1) を完全に返し、減速します。
- フロント／リア両方のブレーキをかけます。
- 停車したら、イグニッションキー (2) を“”位置 (キーの抜き取り位置) に回すと、エンジンが停止します。



4.1.d エンジンの緊急停止

- 緊急時にエンジンを停止するには、赤いキルスイッチ (1) を“”位置に押し込みます。停車したら、キルスイッチ (1) を“”位置に戻します。

警告

スロットルが開状態でロックした場合、またはエンジンの回転数が制御できなくなる故障が発生した場合、すぐにキルスイッチ (1) を押してください。走行中にキルスイッチを押した後は、モーターサイクルを通常通りコントロールし、通常通りブレーキを操作します。



4.1.e モーターサイクルの駐車

関連するセクションの説明に従って、モーターサイクルをサイドスタンドまたはセンタースタンドで立てます。

警告

- モーターサイクルを停止した後は、エンジンおよびエキゾーストシステムは非常に高温になっています。歩行者が意図せずこれらに接触しないように駐車してください。
- 乾燥した草や引火性の物の近くに駐車しないでください。
- 傾斜した場所や、表面が柔らかい場所に駐車しないでください。モーターサイクルが転倒すると、燃料が漏れて、火災が発生する恐れがあります。



5.1 メンテナンスと定期点検

5.1.a 定期メンテナンス

定期的に点検、調整および注油を実施することで、モーターサイクルを安全および効率の点でベストな状態に保つことができます。次のページ以降で、モーターサイクルの点検、調整および注油に関連して、最も重要なポイントを説明します。

表に示したメンテナンス時期は、通常の走行条件での一般的な目安と考えてください。ただし、気候条件、地形、地理および個人の使い方などに応じて、メンテナンス間隔を早めることが必要になる場合があります。

警告

メンテナンスが不十分だったり、間違ったメンテナンスを実施すると、モーターサイクル使用中の負傷や死亡のリスクが高まります。メンテナンスは、*Italjet* の正規販売店か、専門の整備工場にお任せください。

警告

メンテナンス作業を開始する前に、必要な工具、コンポーネント、および技術的なスキルがあることを確認してください。

- エンジンを停止して、モーターサイクルを平坦で固い路面に駐車します。
- エンジン、マフラー、およびブレーキディスクの温度が下がるまで待機します。

警告

モーターサイクルを埃が多い道、ぬかるんだ道、冠水した道などで使用した場合、エアフィルターをより早期に清掃／交換する必要があります。適切なメンテナンス時期に *Italjet* の正規販売店にお越しください。

メンテナンス 時期	時期／走行距離											
	時期（月）	6	12	18	24	30	36	42	48	54	60	66
	走行距離 (x 1000km)	1	6	12	18	24	30	36	42	48	54	60
エンジン												
ガイドブーリーローラー				L		L		L		L		L
バリエーターカバーのプラスチック製ブッシュ				R		R		R		R		R
クラッチベル			C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
ドライブベルト				R		R		R		R		R
トランスミッションエアフィルター				I		I		I		I		I
エンジンオイルフィルター	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R
バルブクリアランス				A		A		A		A		A
ハブオイル	R			R		R		R		R		R
エンジンオイル (*)	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R
CVT ローラー				R		R		R		R		R
CVT フロント可動式ハーフブーリー				I		I		I		I		I
トランスミッション				L		L		L		L		L
スパークプラグ				R		R		R		R		R
エアフィルター			C	C	C	C	C	C	C	C	C	C



項目	メンテナンス 時期	時期／走行距離											
		時期（月）	6	12	18	24	30	36	42	48	54	60	66
		走行距離 (x 1000km)	1	6	12	18	24	30	36	42	48	54	60
燃料蒸発ガス発散抑止装置													
キャニスターおよびホース		I		I		I		I		I		I	
冷却システム													
クーラントレベル（**）		I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	
ラジエター				C		C		C		C		C	
燃料供給システム													
燃料フィルター				R		R		R		R		R	
燃料ホース（***）		I		I		I		I		I		I	
電気システム													
バッテリー電圧		I		I		I		I		I		I	
ヘッドライト上下調整				A		A		A		A		A	
試運転													
試運転		I		I		I		I		I		I	

メンテナンス 時期 項目	時期／走行距離											
	時期（月）	6	12	18	24	30	36	42	48	54	60	66
	走行距離 (x 1000km)	1	6	12	18	24	30	36	42	48	54	60
フレーム												
保安部品		I		I		I		I		I		I
ブレーキ		I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
ブレーキフルード (**)		I		I		I		I		I		I
サスペンション				I		I		I		I		I
ホイール／タイヤ		I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
ステアリング		I		I		I		I		I		I
エキゾーストシステム				I		I		I		I		I
スロットルコントロール		A		A		A		A		A		A

I：点検および清掃、調整、注油、必要な場合は交換

C：清掃

R：交換

A：調整

L：潤滑

(*) 3000km 毎にレベルを点検

(**) 2 年毎に交換

(***) 4 年毎に交換

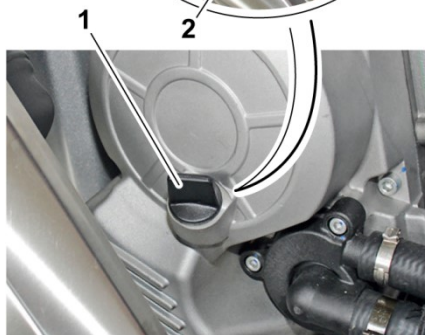
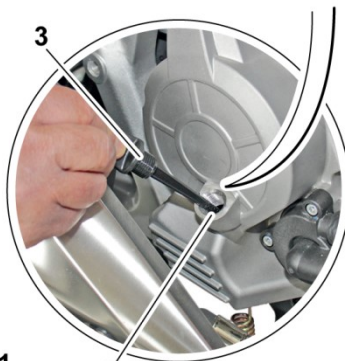
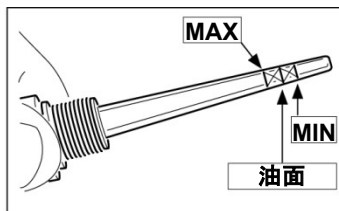
5.1.b 油量の点検

お知らせ：この点検は、エンジンを停止した直後の暖機状態で実施する必要があります。

警告

モーターサイクルのエキゾーストシステムは高温になります。火傷しないように注意してください。

- モーターサイクルを水平な場所にセンタースタンドを使って垂直に立てます。
- オイルが落ち着くまで、数分間待機します。
- オイルゲージ (1) を緩めて取り外し、オイルゲージをウエスで拭いてから、注油口 (2) に戻しますが、ねじ込まないでください。再度オイルゲージを取り出して、油面が最低レベルの“MIN”と最高レベルの“MAX”の間にあることを確認します。
- オイルを補充する場合、注油口 (2) から MAX レベルを超えないように注入します。
- オイルゲージ (1) を戻し、ねじ込みます。



5.1.c エンジンオイルとオイルフィルターの交換

お知らせ：オイル交換は、エンジンを停止した直後の暖機状態で実施する必要があります。

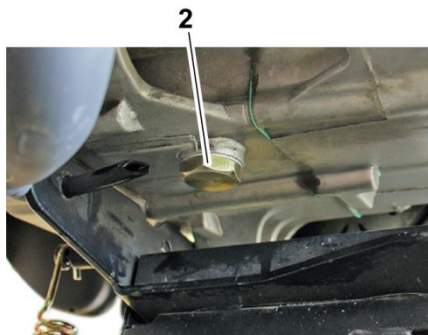
警告

高温になったオイルで火傷しないように注意してください。

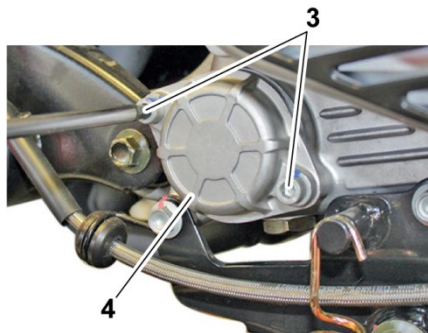
- モーターサイクルを水平な場所にセンタースタンドを使って垂直に立てます。
- オイルゲージ (1) を取り外します。



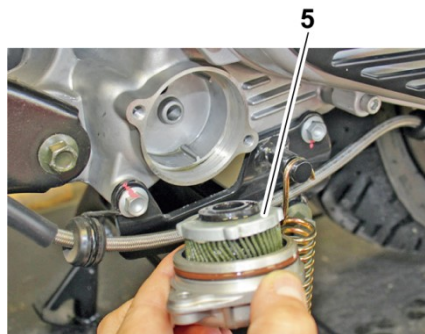
- ドレンプラグ (2) の下にオイルパンを置きます。
- ドレンプラグ (2) を取り外して、オイル全量を抜きます。



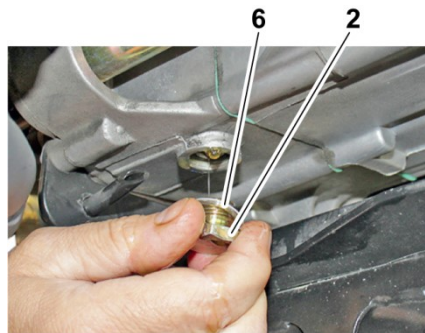
- 2 本のボルト (3) を取り外して、カバー (4) を外します。



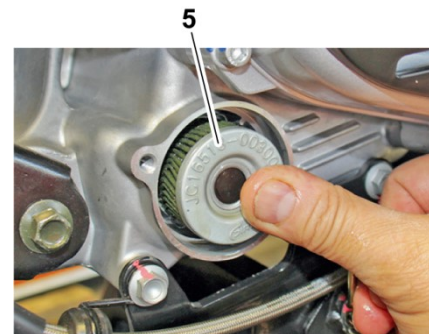
- オイルフィルター (5) を取り外して状態を点検し、必要に応じて交換します。



- シールワッシャー (6) を取り付けて、ドレンプラグ (2) を取り付けます。



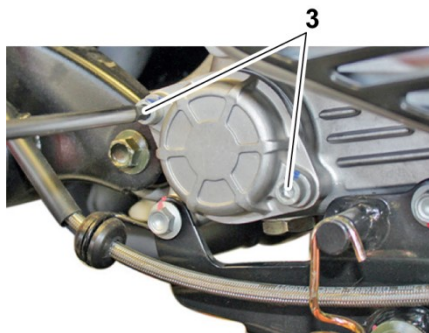
- オイルフィルター (5) を取り付けます (取り付け方向に注意してください)。



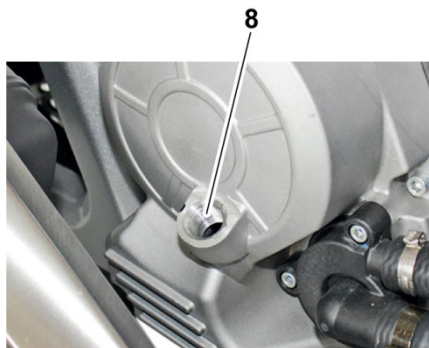
- カバー (4) を取り付けます。このとき、ガスケット (7) を点検して、損傷している場合は交換します。



- ボルト (3) を締め付けます。



- 注油口 (8) から約 900cc のオイルを注ぎます。



- オイルゲージ (1) を戻し、ねじ込みます。

お知らせ: 使用するオイルのタイプについては、「給油」のセクションを参照してください。

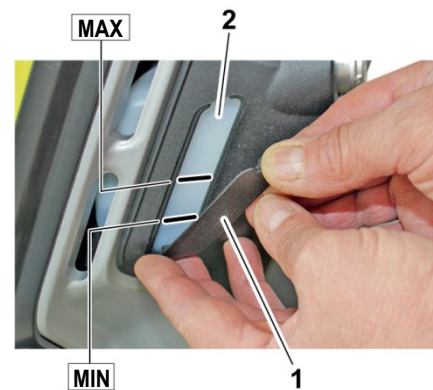
お知らせ: 部品に付着したオイルは、エンジンとエキゾーストシステムの温度が下がってから、ウエスで拭き取ってください。

- エンジンを始動して、数分間アイドリングします。このとき、オイル漏れがないことを確認してください。オイル漏れがある場合、すぐにエンジンを停止して、原因を確認してください。
- エンジンを停止して、油量を点検し、必要に応じて調整します。
- 「デジタルインストルメントパネル」のセクションの説明に従って、メンテナンス時期をリセットします。

5.1.d クーラントレベルの点検

お知らせ: クーラントレベルは、エンジンの冷間時に点検します。

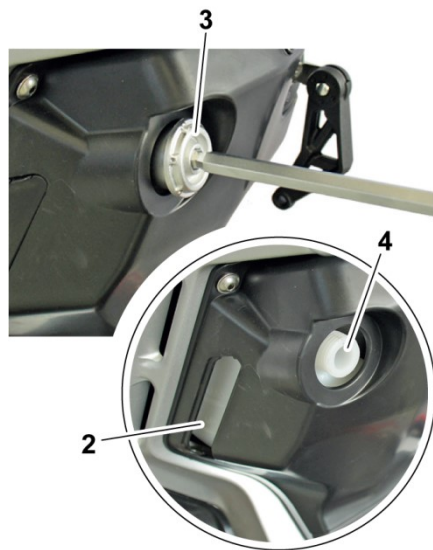
- モーターサイクルを水平な場所にセンタースタンドを使って垂直に立てます。
- リザーバータンク (2) のカバー (1) を取り外します。



- クーラントの液面がタンクの最低の“MIN”レベルと最大の“MAX”レベルの間になっていることを点検します。

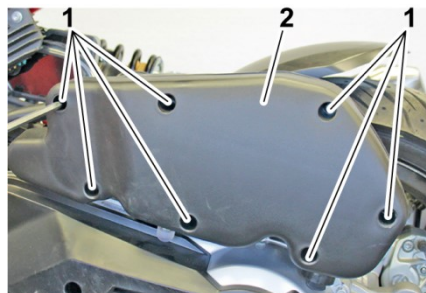
- 補充の必要がある場合、タンクのキャップ (3) を緩めて、タンク (2) のレベルを確認しながら、クーラントを注入口 (4) から注ぎます。
- 適切なレベルに達したら、キャップ (3) とカバー (1) を取り付けます。

お知らせ: クーラントには腐食性があります。注入している間に、少量がこぼれて付着したら、その部分を注意して水で清掃します。

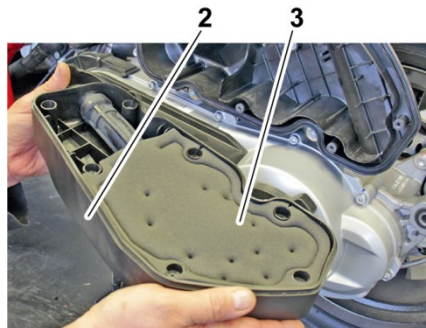


5.1.e エンジンエアフィルターの清掃

- スクリュー (1) を外し、カバー (2) を取り外します。



- フィルターカバー (2) から、フィルター (3) を取り外します。

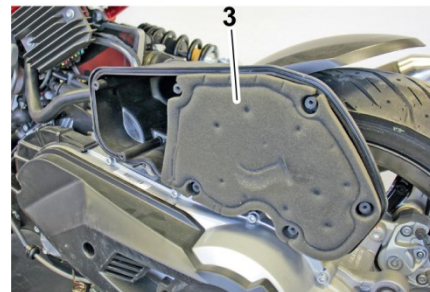


- 適切なフィルタークリーナーを使って、フィルター (2) を清掃し、完全に乾かします。

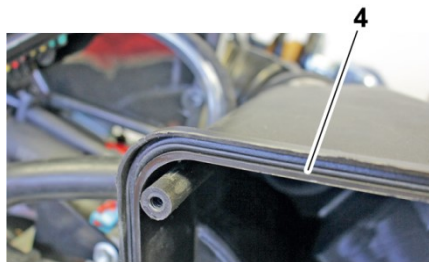
⚠ 警告

フィルターの清掃には、ガソリンやその他の引火性の溶剤を使用しないでください。

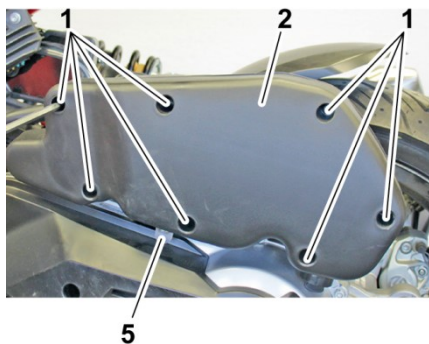
- フィルターが摩耗したり損傷していないか点検し、必要に応じて交換します。
- フィルター (3) 全面に専用オイルを塗布してから、絞って余分なオイルを取り除きます。
- フィルター (3) をカバーに取り付け、カバーをフィルターボックスに取り付けます。
- ガスケット (4) の状態を点検し、損傷している場合は交換します。



- スクリュー（１）を締め付けて、フィルターカバー（２）を取り付けます。

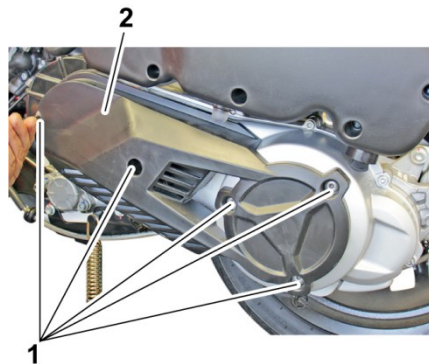


- ブリーザーパイプ（５）が汚れていないことを点検し、汚れている場合はブリーザーパイプを取り外して清掃してから取り付けます。

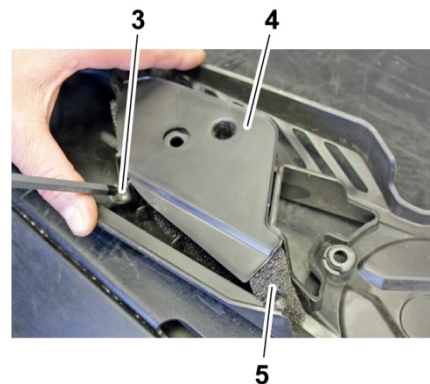


5.1.f トランスミッションエア フィルターの清掃

- スクリュー（１）を外し、カバー（２）を取り外します。



- フィルター（５）を規定の位置に固定するケース（４）のスクリーン（３）を取り外します。

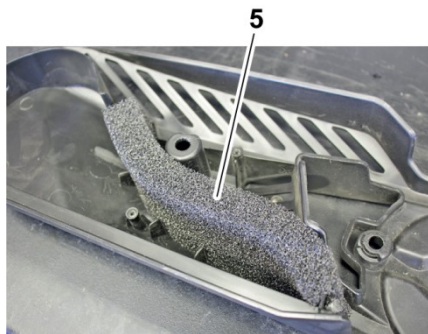


- フィルター（５）を取り外し、適切な洗剤で清掃します。

⚠ 警告

フィルターの清掃には、ガソリンやその他の引火性の溶剤を使用しないでください。

- フィルターが摩耗したり損傷していないか点検し、必要に応じて交換します。
- 分解と逆の手順で、フィルター（５）を取り付けます。



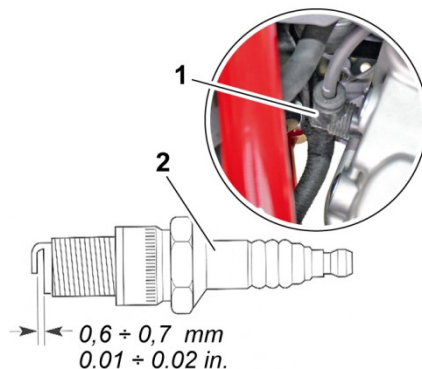
5.1.g スパークプラグの点検

⚠ 警告

火傷する恐れがあるため、エンジンの温度が下がるまで待機してから、点検を実施してください。

スパークプラグの電極の隙間（１）は0.6～0.7mmであることが必要です。この範囲外になると、モーターサイクルが故障する原因となります。

- キャップ（１）を外します。
- 適切なレンチを使って、スパークプラグ（２）を取り外します。



5.1.h タイヤとタイヤ空気圧の点検

タイヤは常に良好な状態に保つことが必須です。また、仕様に従って、適切な時期に交換する必要があります。走行を開始する前に、必ずタイヤ空気圧を点検し、必要に応じて空気圧を調整します。

⚠ 警告

不適切なタイヤ空気圧で走行すると、モーターサイクルをコントロールできなくなり、重傷を負ったり、死亡につながる恐れがあります。

- タイヤ空気圧は、タイヤの温度が低い（つまり、気温と同じ温度）状態で計測してください。
- タイヤ空気圧は、ライダーとタンデムライダー、およびモーターサイクルに規定された荷物やアクセサリーの合計重量に応じて調整する必要があります。

5.1.i タイヤの点検

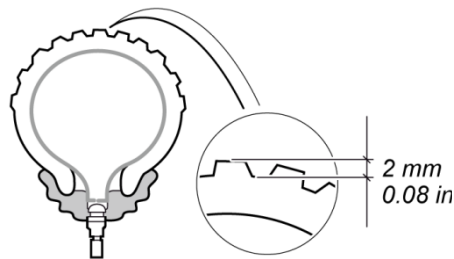
モーターサイクルには、チューブレスタイヤが装着されています。

- タイヤの状態を点検します。ひび割れ、擦り傷などがあってはなりません。タイヤのスリップサインを使って、残溝を点検してください。

使用限度の残溝の深さ

フロント	2mm (0.08 in)
リア	2mm (0.08 in)

- 「諸元」のセクションで規定されている数値に基づいて、空気圧を点検してください。



⚠ 警告

フロントとリアのタイヤは、同じメーカーの同じモデルであることが必要です。フロントとリアで別々のタイヤを使うと、モーターサイクルの安定性と、取り回しのしやすさが損なわれます。

お知らせ： タイヤは、外観的には摩耗していなくても経時劣化します。タイヤの側面のひび割れや変形は、劣化の兆候です。このような状態が見られる場合は、走行する前にタイヤショップなどで点検を受けてください。

冷間時タイヤ空気圧：

1 名乗車時：

フロント：

190kPa (1.9Kgf/cm², 28psi)

リア：

200kPa (2.00Kgf/cm², 29psi)

2 名乗車時：

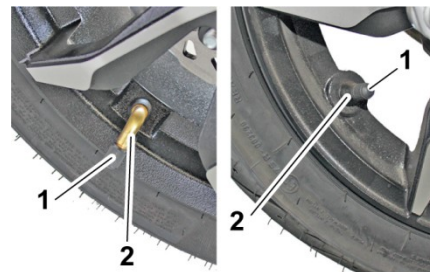
フロント：

210kPa (2.10Kgf/cm², 30psi)

リア：

250kPa (2.50Kgf/cm², 36psi)

- 空気圧を調整するには、キャップ (1) を取り外して、プレッシャーゲージをバルブ (2) に取り付けます。



⚠ 警告

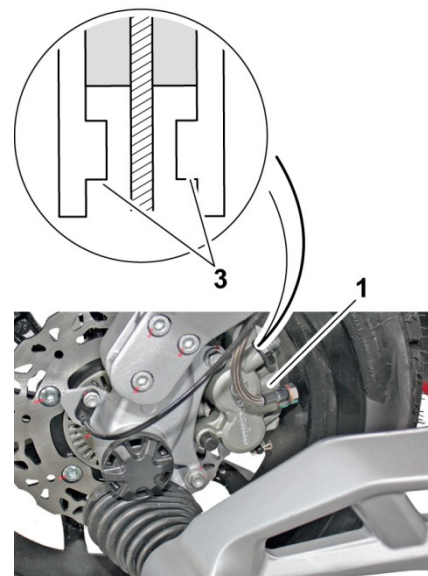
- 使用限度を超えて摩耗したタイヤは、タイヤショップなどで交換をしてください。使用限度を超えて摩耗したタイヤを使用して走行すると、安定性が低下し、モーターサイクルをコントロールできなくなる恐れがあります。
- タイヤ交換後は、控え目な速度で走行して、タイヤの表面を慣らして、タイヤの設計性能を発揮できるようにします。

お知らせ：タイヤを交換したら、ホイールのバランスを取る必要があります。

走行する前に、毎回、リムにひび割れ、歪み、変形、その他の損傷がないか、点検してください。損傷が見つかった場合は、ホイールを交換してください。ホイールは、ほんのわずかな修理も行わないでください。変形やひび割れがある場合、必ずホイールを交換してください。

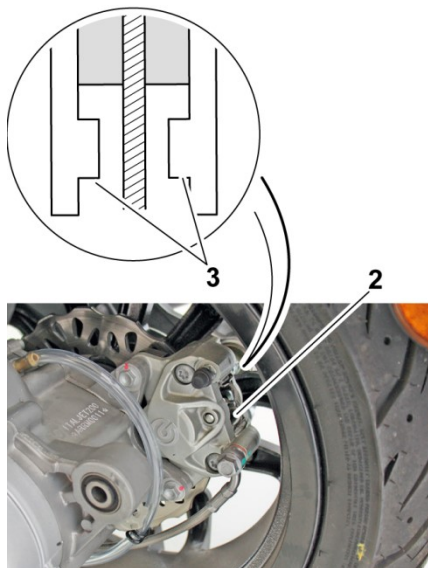
5.1.1 ブレーキパッドの摩耗の点検

フロントのブレーキパッド（１）およびリアのブレーキパッド（２）の摩耗を点検します。



- パッドには、ウェアインジケーター (3) が設けられています。パッドの摩耗を点検するには、ブレーキをかけた状態で、ウェアインジケーター (3) の位置を点検します。

ウェアインジケーターがブレーキディスクに接触しそうになるまでパッドが摩耗したら、パッドをペアで交換します。



⚠ 警告

ブレーキパッドを交換する場合は、*Italjet* の正規販売店にご相談ください。

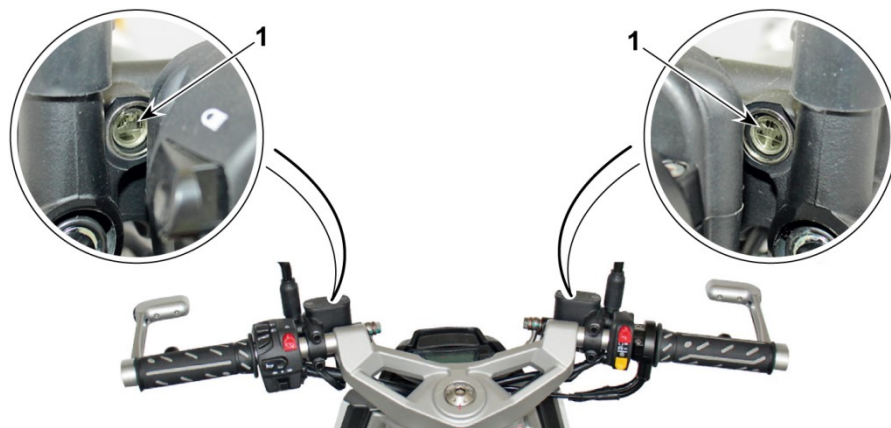
⚠ 警告

ブレーキパッドを交換した後は、注意して運転し、徐々にブレーキをかけてパッドを馴染ませて、ディスクとの当たりをつけます。

5.1.m フロント／リアブレーキのフルードのレベル点検

- モーターサイクルをマスターシリンダーの上面が地面と水平になるようにします。
- マスターシリンダーのフルードレベルが、点検窓（1）の中央の高さになっている必要があります。

フルードレベルが低下すると、ブレーキシステムに空気が混入し、レバーの引き代が長くなる原因となります。フルードの補充が必要な場合、**Italjet** の正規販売店にご相談ください。



⚠ 警告

ブレーキレバーが「柔らかすぎる」場合、ホースに空気が混入しているか、システムが故障しています。そのような状態でモーターサイクルを使用すると危険であるため、すぐに **Italjet** の正規販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。

注意

ブレーキフルードが、プラスチックの部品やレンズ（ヘッドライトなど）に付着しないようにしてください。

⚠ 警告

異なるタイプのフルードを混ぜないでください。別のブランドのフルードを使用する場合は、使用中のフルードを完全に排出してください。

⚠ 警告

ブレーキフルードに触れると、炎症を引き起こす恐れがあります。皮膚に付着したり、目に入ったりしないようにしてください。皮膚に付着した場合は、その部分を完全に洗い流します。目に入った場合、医師の処置を受けてください。



警告

- 必ず指定のブレーキフルードを使用してください。それ以外のフルードを使うと、ラバーシールが劣化し、液漏れの原因になります。
- 同じタイプのブレーキフルードを補充してください。DOT 4 以外のブレーキフルードを補充すると、有害な化学反応が起こる恐れがあります。
- 補充中に、マスターシリンダーのブレーキフルードに水や埃が混入しないように注意してください。水が混入すると、フルードの沸点が大幅に低下し、「ペーパーロック現象」の原因となります。埃が混入すると、ABS 油圧ユニットのバルブが詰まる恐れがあります。

警告

ブレーキフルードは、塗装面やプラスチック部品を損傷します。フルードが付着したら、すぐに拭き取ってください。

ブレーキパッドの摩耗が進むと、それに伴って、ブレーキフルードのレベルが徐々に低下します。ブレーキフルードのレベルが低い場合、ブレーキパッドが摩耗しているか、ブレーキ回路に漏れがある恐れがあります。したがって、ブレーキパッドの摩耗の状態と、ブレーキ回路の漏れの有無を点検してください。ブレーキフルードのレベルが急激に下がった場合、走行を続けず *Italjet* の正規販売店で点検を受けてください。

5.1.n ブレーキフルードの交換

Italjet の正規販売店で 2 年毎にブレーキフルードを交換してください。また、以下の時期、または損傷したり漏れがある場合はそれより早く、マスターシリンダーおよびブレーキキャリパーのシールおよびブレーキホースも交換してください。

- ブレーキシール：2 年毎
- ブレーキホース：4 年毎

5.1.o V ベルトの点検

V ベルトは、メンテナンス時期の表に従って、*Italjet* の正規販売店で点検／交換を受ける必要があります。

5.1.p センタースタンドおよびサイドスタンド（オプション）の点検と注油

定期的に、センタースタンドおよびサイドスタンドの作動状態を点検し、必要に応じてピボットボルト（１）と、金属の接触面に注油します。

⚠ 警告

センタースタンドまたはサイドスタンドがスムーズに動かない場合、*Italjet* の正規販売店で点検および修理を受けてください。



5.1.q ショックアブソーバーのスプリングプリロード調整

フロント（１）およびリア（２）ショックアブソーバーのスプリングプリロードを調整できます。調整するには、リングナット（３）を締め付けるとプリロードが増加し、緩めると減少します。

リングナットを締め付けると、スプリングが圧縮され、サスペンションが硬くなります。

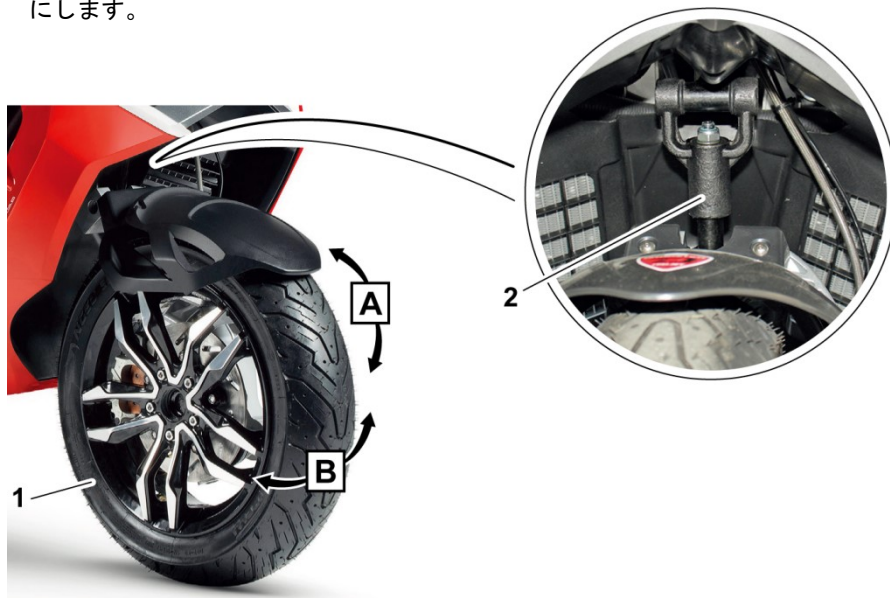
リングナットを緩めると、スプリングが伸びて、サスペンションが柔らかくなります。



5.1.r ステアリングコラムの点検

定期的に、ステアリングコラムの遊びを点検してください。

- モーターサイクルをセンタースタンドで立てて、1 人がハンドルバーを使ってモーターサイクルを安定させ、もう 1 人がホイール (1) を矢印 “A” および矢印 “B” の方向に動かすようにします。

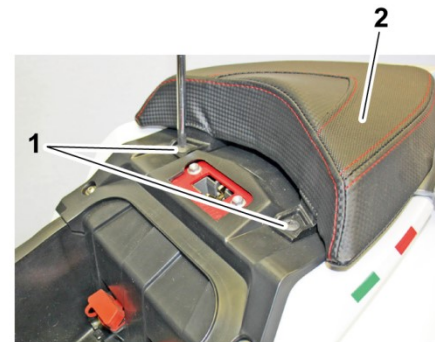


過剰な遊びがある場合は、*Italjet* の正規販売店でステアリングコラム (2) の動作の点検を受けてください。

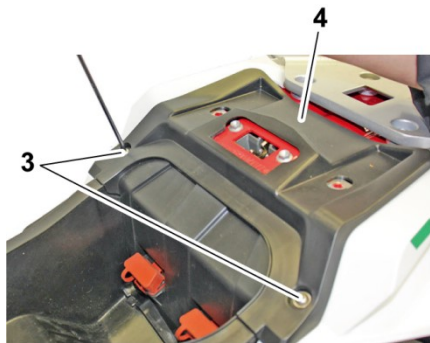
5.1.s バッテリーの点検と充電

バッテリーコンパートメントにアクセスするには、以下の手順を行います。

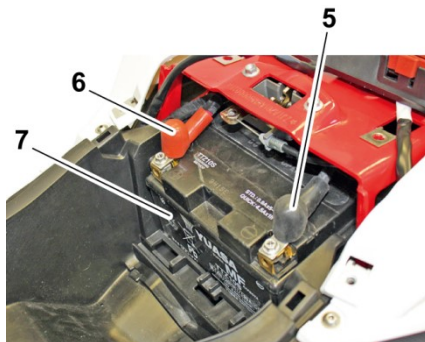
- 関連するセクションの説明に従ってシートを開けます。
- 2 本のボルト (1) を外して、タンデムシート (2) を取り外します。



- 2本のボルト(3)を外して、カバー(4)を外します。

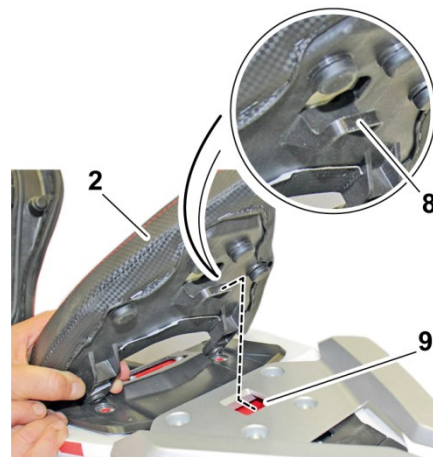


- 先に黒のケーブル(5)を外してから、次に赤の+ケーブル(6)を外します(接続するときは、先に赤の+ケーブルを接続してから、黒のケーブルを接続します)。
- バッテリー(7)をハウジングから取り出します。



- テスターを使って、バッテリーの電圧が 12.5V 以上あることを確認します。この電圧を下回った場合、充電する必要があります。

- 定電圧バッテリーチャージャーを使って、先に赤の+ケーブルをバッテリーの正極に接続してから、黒のケーブルを負極に接続します。
- バッテリーをハウジングに戻す前に、必ず充電状態を点検してください。バッテリーは、常に汚れのない状態に保ち、電極にはグリスを塗布します。
- 取り外しと逆の手順を行って、取り外したすべてのパーツを元に戻します。特に、タンデムシートのフック(8)をサポートの溝(9)に挿入してください。





⚠ 危険

バッテリーには、硫酸が入っています。バッテリー液が皮膚や衣服に付着したり、目に入らないように注意してください。

処置：

皮膚に付着した場合：

流水で完全に洗い流してください。

飲み込んでしまった場合：

大量の水または牛乳を飲みます。すぐに医師の処置を受けてください。無理に嘔吐して吐き出すとはしないでください。

目に入った場合：

流水で 15 分以上洗い流して、医師の処置を受けてください。

注意

バッテリーを使用しない場合、少なくとも 3 週間毎に低速充電（12V-6Ah バッテリーの場合、0.6 A で 8 時間）する必要があります。

⚠ 警告

バッテリーから爆発性のガスが発生します。バッテリーを屋内で充電する場合は、部屋をよく換気してください。バッテリーチャージャーを使用する際は、先にバッテリーに接続してから電源を入れます。この手順を守ることによって、接続時に火花が発生して、バッテリー内に溜まったガスに着火するのを避けることができます。

5.1.t ヒューズの点検／交換

モーターサイクルには 2 つのヒューズボックスが装備されています。1 つはシート下、1 つはフロントパネル内に設置されています。

シート下のヒューズ

-シートを開けて、ヒューズボックス (1) にアクセスします。

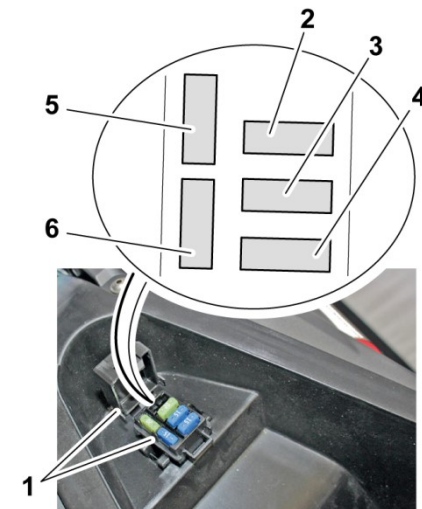
ヒューズ 2 (15A) = ABS モーター

ヒューズ 3 (15A) = ABS バルブ

ヒューズ 4 (20A) = +、インストルメントパネル、電圧レギュレーター、インジェクション

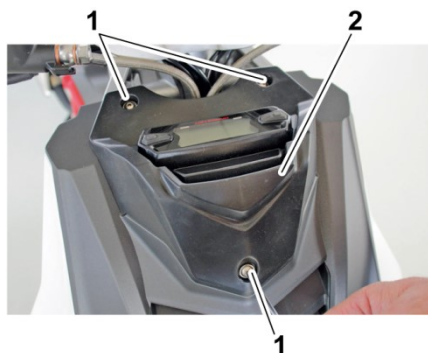
ヒューズ 5 (20A) = 予備ヒューズ

ヒューズ 6 (15A) = 予備ヒューズ



フロントパネル内のヒューズ

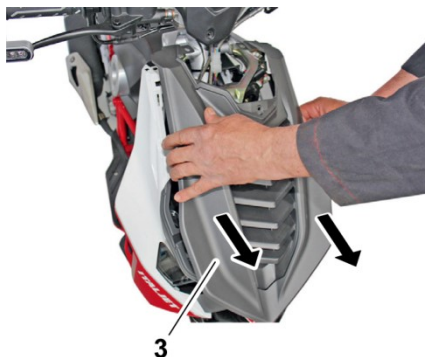
- スクリュー (1) を外し、アッパーパネル (2) を取り外します。



- パネル (3) を外側に向かって少し開き、上側を外します。



- パネル (3) を両手で持って、サポートから外れるまで手前に引っ張ります。

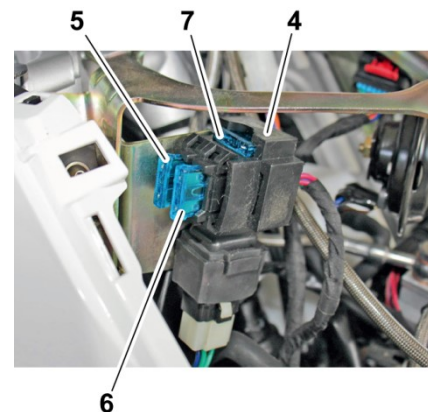


- ヒューズボックス (4) は、モーターサイクルの右上にあります。

ヒューズ 5 (15A) = ライト、ライセンスプレートライト、ウインカーリレー、ホーン

ヒューズ 6 (15A) = インジェクション、スターターモーター

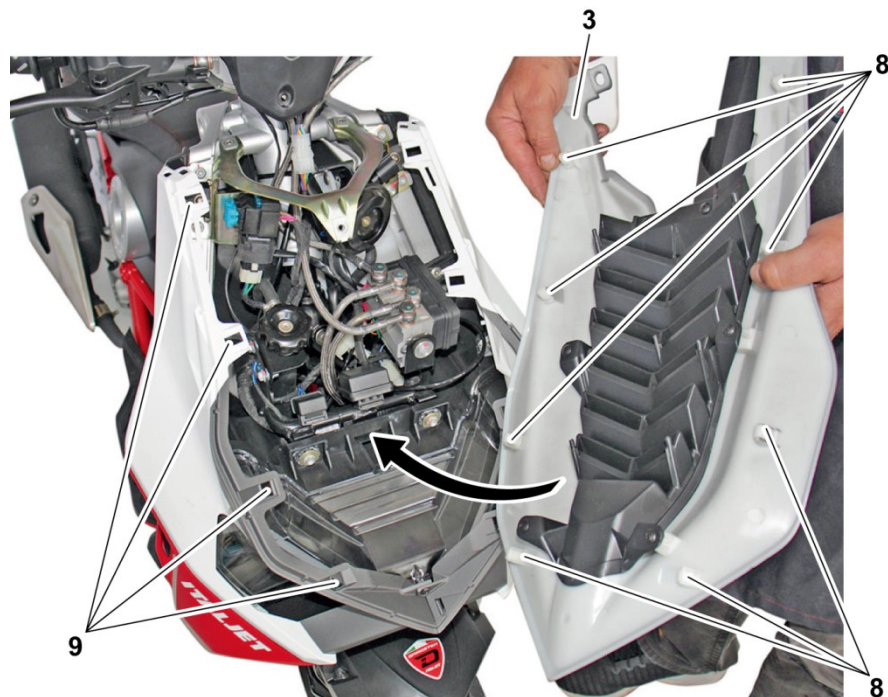
ヒューズ 7 (15A) = 予備ヒューズ



- 取り外しと逆の手順を行って、取り外したすべてのパーツを元に戻します。
このとき、パネル（３）のピン（８）を
対応する穴（９）に挿入します。

注意

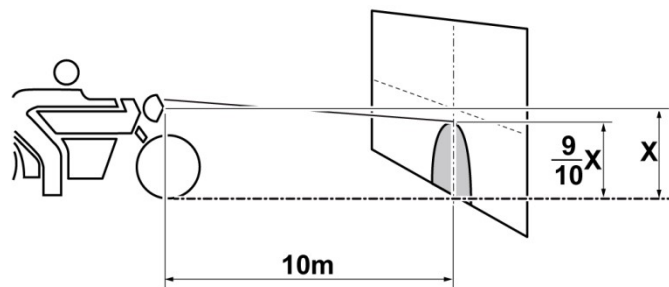
純正より容量が大きいヒューズ
を使用しないでください。電子
システムを損傷したり、火災の
原因になります。



5.1.u ヘッドライトの調整

ヘッドライトの光軸合わせ

- 光軸が正しく調整されていることを点検するためには、既定のタイヤ空気圧にして、1 名が着座し、車体を正確に直立させます。
- 壁またはスクリーンから 10m 離れた位置にモーターサイクルを駐車して、ライトの高さの中心に水平の線を引き、車体の中心線の延長線上の壁またはスクリーンに垂直な線を引きます。



- この点検は、可能であれば薄暗い場所で実施します。
- ハイビームを点灯した場合、光束の上端がヘッドライトの中心の高さの $\frac{9}{10}$ を超えない高さになっていることが必要です。
- 調整が必要な場合は、**Italjet** の正規販売店にお越しください。

灯火類

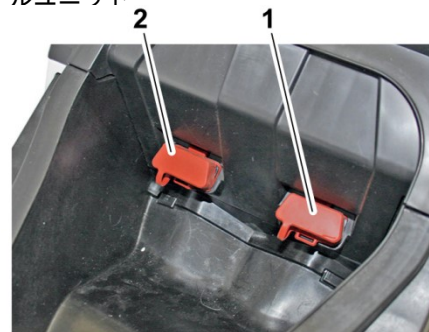
- モーターサイクルには LED の灯火類が装備されています。点灯しない場合は、**Italjet** の正規販売店で交換してください。

診断コネクター

診断コネクター (1) (2) を使用するには、シートを開けます。

コネクター (1) = ABS コントロールユニット

コネクター (2) = エンジンコントロールユニット





6.1 モーターサイクルのお手入れと保管

6.1.a お手入れ

モーターサイクルを定期的に清掃することで、美しい外観が保たれるだけでなく、総合的な性能が改善し、多数のコンポーネントの寿命が延びます。さらに、洗車、清掃および艶出しの作業をすることで、より頻繁にモーターサイクルのコンディションを確認することになります。雨の中で使用した後だけでなく、海岸近くを走行した後は、付着した塩分が金属を腐食させるのを防ぐため、洗車してください。

お知らせ：豪雪地帯では、凍結防止のために道路に塩が撒かれる場合があります。この塩が、春の終わり頃まで路面に残っている場合があるため、そのような地域で走行した後は、車体下回りやシャシーのコンポーネントを洗い流してください。

警告

正しく清掃を行わないと、外観が損なわれたり、機構が損傷したりする恐れがあります。以下は使用しないでください。

- 高圧洗浄機、スチームジェットクリーナー。過剰な水圧によって、ホイールベアリング、ブレーキ、トランスミッションのシールおよび電装系に水が浸入し、劣化を招く恐れがあります。
- 強力なケミカル製品や、サテン仕上げのコンポーネントに研磨剤を含む洗剤やワックス。ブッシュが損傷したり、サテン仕上げが損なわれる恐れがあります。柔らかいスポンジやタオルを使ってください。

- 研磨剤を含むクリーナーや、溶剤、ガソリン、防錆剤、ブレーキフルード、不凍液などの強力なケミカル製品が残っているタオル、スポンジやブラシ。

6.1.b 洗車

準備

1. モーターサイクルを日陰に駐車して、温度が下がるまで待機します。
こうすることで、水跡がつくのを防ぎます。
2. すべてのプラグ、カバー、コネクタおよび電装系の接続エレメントがしっかりと取り付けられていることを確認します。
3. マフラー内部に水が入らないように注意してください。
4. 高品質のディグリーザーと、プラスチックブラシやスポンジを使って、路面から飛散して付着した汚れやオイルの跡を清掃します。

洗車中

1. 流水でディグリーザーを残らず洗い流します。マフラー、インストルメントパネル、エアインテークやその他の内部部分（シート下のストレージコンパートメントなど）に直接水をかけないでください。
2. 高品質なカー洗剤と水を混合した液とスポンジを使ってモーターサイクルを洗車します。届き難い細かな場所は、歯ブラシやプラスチックブラシを使って清掃します。

注意

モーターサイクルに塩が付着している場合は、冷水を使います。お湯を使うと、塩の腐食性が増大します。

3. きれいな水で、十分に濯ぎます。洗剤が残らないようにします。洗剤は、プラスチックのコンポーネントを傷めます。

洗車後

1. モーターサイクルを完全に乾燥させます。
2. クローム、アルミ、ステンレススチールの表面を専用の製品を使ってポリッシュします。
3. クロームやニッケルめっきされた表面を含むすべての金属製コンポーネントに錆止めスプレーを吹きかけます。

警告

シート、グリップ、フットレストブラケットのラバー、ブレーキディスクやタイヤの溝などには、シリコンまたはオイルベースのスプレーを吹き付けしないでください。これらにスプレーした場合、コンポーネントが非常に滑りやすくなり、モーターサイクルを制御できなくなる恐れがあります。これらのコンポーネントの表面を、きれいに清掃してください。



4. ラバー、ビニール、および未塗装のプラスチックのコンポーネントを適切なケミカルでお手入れします。
5. すべての塗装面には、研磨剤を含まないワックスを使ってください。
6. 清掃が終わったら、エンジンを始動して、数分間アイドリングして残った水気を飛ばします。
7. モーターサイクルを完全に乾燥させてから、保管する、またはカバーをかけてください。

警告

ブレーキやタイヤにワックスや潤滑剤が付着しているとモーターサイクルを制御できなくなる恐れがあります。

- ブレーキまたはタイヤに潤滑剤やワックスが付着していないことを確認します。
- 必要に応じて、タイヤをぬるま湯と中性洗剤で洗います。
- 必要に応じて、ブレーキディスクとパッドを専用のスプレークリーナーで清掃します。
- 洗車後、ブレーキの効きをテストしてください。

6.1.c 保管

モーターサイクルは、涼しく乾燥した場所に保管してください。必要に応じて、埃から守るため透過性シートでカバーしてください。

モーターサイクルにカバーをかける前に、エンジンとエキゾーストシステムの温度が下がっていることを確認してください。

注意

腐食を防ぐため、湿気の多い地下駐車場、動物保護施設（空気中のアンモニア濃度が高いため）、および強い化学薬品が保管されている場所は避けてください。

6.1.d 長期保管

長期間（60 日以上）モーターサイクルを保管する場合、以下を行ってください。

1. メンテナンス作業を実施します。
2. モーターサイクルを清掃します。
3. 燃料タンクに燃料安定剤を注入します。その際、製品の指示に従ってください。
燃料安定剤を添加した燃料がシステムに行き渡るように、エンジンを 5 分間運転します。
4. センタースタンドとサイドスタンド（装備者の場合）に注油します。
5. タイヤ空気圧を点検し、規定の空気圧にしたら、前後のタイヤを床面から浮かせます。
6. 水分が浸入しないように、ドレンホースの口にビニール袋を被せます。
7. バッテリーを取り外すか、満充電にするか、またはメンテナンス用チャージャーを接続して最適な充電状態を維持します。

注意

チャージャーがバッテリーに適しているものであることを確認してください。

お知らせ： バッテリーを取り外す場合、室温 0～30°C（32～90°F）の場所に保管し、1 ヶ月に 1 回充電します。



7.1 諸元

全長	1890 mm
全幅	750 mm
全高	1075 mm
シート高	770 mm
ホイールベース	1350 mm
最低地上高	130 mm
車両重量（空車重量）	140 kg
最大車両積載重量（ライダー＋タンデムライダー＋荷物）	295kg
最高速度	96/108 km/h (125/200)
エンジンオイル	1000 cm ³ （初回注油量） 950 cm ³ （オイルとフィルター交換時） 900 cm ³ （オイル交換時）
トランスミッションオイル	130cm ³
クーラント	1.15 l（水 50%＋エチレングリコール不凍液 50%）
シート	2
ギアボックス	CVT
トランスミッション	減速装置およびベルト
フレームタイプ	高張力鋼管フレーム、シングルフロントビーム、リアダブルオーバーラッピングクレードル
ステアリング舵角	27.5°

>>>>>

フロントサスペンション	独立ステアリングシステム
フロントサスペンションのストローク長	33mm
リアサスペンション	モノショック
リアサスペンションのストローク長	47mm
フロントディスク	Ø 200mm ディスクおよび油圧式キャリパー
リアディスク	Ø 190mm ディスクおよび油圧式キャリパー
ホイールリム	軽量アルミリム
フロントホイールリム	MT 3.50 x 12"
リアホイールリム	MT 4.00 x 13"
タイヤのタイプ	チューブレス
フロントタイヤ	120/70 - 12" 51 P
リアタイヤ	140/60-13" M/C 63P (140/70-13" M/C 61 P)
フロントタイヤの標準空気圧	190kPa (1.9bar)
リアタイヤの標準空気圧	200kPa (2.0bar)
フロントタイヤの標準空気圧 (タンデムライダーが乗車する場合)	210kPa (2.1bar)
リアタイヤの標準空気圧 (タンデムライダーが乗車する場合)	250kPa (2.5bar)
バッテリー	12V - 10 Ah
ヒューズ	20 - 15 - 15 - 15 - 15 - 10A
オルタネーター (永久磁石タイプ)	12 V - 330W/8000rpm



エンジン諸元 (200CC)

エンジン型式	ARR
エンジン種別	単気筒 4 ストローク、4 バルブ、強制湿式潤滑方式、DOHC
最高出力	12.9kW (8000rpm)
最大トルク	15.5 N・m (7750rpm)
排気量	181cc
ボア x ストローク	63mm x 58mm
圧縮比	11.6 ± 0.5 : 1
始動方式	セルスターター
アイドリング回転数	1800rpm ± 10%
クラッチ	自動遠心乾式クラッチ
ギアボックス	オートマチック
冷却	水冷システム、ラジエターおよび電動ファンを使用
インジェクション	電子制御式インジェクション
スロットルボディ口径	Ø 32mm
燃料	スーパー無鉛ガソリン、最小オクタン価 95 (NORM) および 85 (NOMM)
イグニッション方式	電子制御
スパークプラグ	NGK PMR9B

エンジン諸元 (125CC)

エンジン型式	APR
エンジン種別	単気筒 4 ストローク、4 バルブ、強制湿式潤滑方式、DOHC
最高出力	9.2kW (9500rpm)
最大トルク	10.5 N・m (7750rpm)
排気量	124cc
ボア x ストローク	58mm x 47mm
圧縮比	12.0 ± 0.5 : 1
始動方式	セルスターター
アイドリング回転数	1900rpm ± 10%
クラッチ	自動遠心乾式クラッチ
ギアボックス	オートマチック
冷却	水冷システム、ラジエーターおよび電動ファンを使用
インジェクション	電子制御式インジェクション
スロットルボディ口径	Ø 28mm
燃料	スーパー無鉛ガソリン、最小オクタン価 95 (NORM) および 85 (NOMM)
イグニッション方式	電子制御
スパークプラグ	NGK PMR9B



8.1 推奨油脂類

推奨油脂類	説明	規格
API SG 10W-40 モーターサイクルオイル	エンジンオイル	API SG 10W-40
モーターサイクル用ギアオイル 75W-80	ギアオイル	API GL4、GL5
L-XCDBB2 グリス	モリブデン含有リチウムグリス、ペアリングその他の潤滑用	NLGI 2
ブレーキフルード DOT4	ブレーキフルード	FMVSS DOT4
エンジンクーラント FD-2B	クーラント	不凍液、-40°C まで適応。CUNA 956-16 標準に適合
潤滑／エンジンオイル 5W-30	エアフィルタースポンジ用オイル	-
ニュートラル油または鉱油系グリス	バッテリー電極	-

9.1 保証書および整備手帳



9.1.a 保証内容

新車でご購入いただいたモーターサイクルは、指令 99/44 EC に準拠して初期不良がない状態で納車されています。

保証は、所定の期間、モーターサイクルまたはコンポーネントの製造不良や問題が発生した案件に対し、**Italjet** が承認した場合、無償交換または修理にて対応させていただきます。

保証は、推奨メンテナンス時期に従って、すべてのクーポン（点検票）に正しく押印されている場合のみ有効です。

モーターサイクルの使用目的に競技は含まれず、またモーターサイクルは競技用に設計されていないため、モーターサイクルを競技で使用した場合、保証は適用されませんのでご注意ください。

また、法律で定められている通り、保証は担当の **Italjet** の正規販売店がお客様に直接提供するものです。どのようなことについてもお気軽にご相談ください。担当の **Italjet** の正規販売店が合理的な期間内にお客様のご要望にお応えできない場合、または、お客様のご都合に合わせて、他の **Italjet** の正規販売店にご連絡いただいても結構です。

9.1.b 保証の開始

お客様のモーターサイクルは、**Italjet** の正規販売店からお客様に納車された時点から、初期不良に対する保証が適用されます。

お客様が **Italjet** のモーターサイクルをお受け取りになる際には、正規販売店と一緒に、本マニュアルに含まれている納車証明書にご署名ください。

9.1.c 保証請求手順

保証期間内に、初期不良が原因でモーターサイクルの通常以外の修理／部品交換が必要になった場合、直ちにご購入いただいた正規販売店（担当販売店）にご連絡ください。その際、発生した問題をご説明いただき、正規販売店の点検をお受けください。

初期不良によって作業が必要になった場合、担当販売店が可能な限り最短期間で、修理または部品交換を無償で実施させていただきます。

9.1.d 保証条件

除外条項

以下は保証対象外となります。

- **Italjet** が指定した定期メンテナンス時期を守らなかったことによる故障等。
- 純正のスペアパーツ以外を使用して修理が行われたモーターサイクル。
- 定期メンテナンスが実施されていないモーターサイクル、またはクーポン（点検票）に正しく押印されていない場合。
- 競技／レンタル／過酷なオフロード走行に使用されたモーターサイクル。

消耗／摩耗部品：

保証は、通常の使用で消耗・摩耗する以下の部品には適用されません。

- スパークプラグ
- タイミングチェーン
- ブレーキディスクおよびパッド
- クラッチディスクおよびクラッチウエイト
- タイヤ
- ランプおよびヒューズ
- トランスミッションおよびコントロールケーブル
- ホースおよびその他すべてのゴム製の部品
- ベアリング

- エアフィルターおよび燃料フィルター
- V ベルトおよびプーリー

油脂類

次の油脂類は保証対象外です。

オイル、グリス、バッテリー液およびクーラント。

制限対象

すべてのモデル：バッテリー、シートおよびプラスチック部品の保証期間は6ヶ月です。

- メンテナンスおよびオーバーホール、およびこれらに必要となる部品にかかる費用は保証対象外です。
- 保証を適用した結果発生する以下のような費用は保証対象外です。通信費、宿泊費・食費、または逸失時間、商業的損失、代車のレンタル費用、交通費など。

お知らせ：保証に関するその他の要点

- 保証書を大切に保管し、保証修理・部品交換のたびに **Italjet** の正規販売店にご提示ください。
- メンテナンスのクーポン（点検票）は、作業を行った正規販売店が記入・押印する必要があります。
- 保証は、保証期間内であれば次の所有者に引き継ぐことができます。
- 所有者が変わる場合は、本マニュアルの専用のクーポンをご利用ください。
- Italjet は、すべてのモデルに変更／改善を行う権利を保有し、すでに販売済みの車両にかかる変更を行う義務を負いません。



Handwriting practice lines consisting of 10 sets of horizontal lines. Each set includes a solid top line, a dashed middle line, and a solid bottom line.

納車証明書

日付：

車台番号：

モデル：

エンジン
番号：

本モーターサイクルは、Italjet S.P.A. が指定するすべての点検および納車前作業が完了しており、また、お客様がご注文いただいたオプションのアクセサリー類の取り付けも完了しています。

お客様には、保証書を含む『ユーザーマニュアル／メンテナンスマニュアル』をお渡しするとともに、モーターサイクルの主な操作について説明しました。

正規販売店の押印と担当者の署名

ITALJET S.P.A. および正規販売ネットワークは、アシスタンスサービスを提供する義務を遂行するために、1996 年の法令第 675 号および以降の修正条項に基づき、お客様の同意を得ることなくご購入者の個人情報を処理できます。

お客様

お名前：

ご住所：

郵便番号：

お電話番号：

本日、私は上記のモーターサイクルを受領しました。これが完全な状態で、私の期待通りであることを表明します。また、私は保証書を含む『ユーザーマニュアル／メンテナンスマニュアル』を確かに受領しました。私は、アシスタンスサービスを提供する目的で、Italjet S.P.A. が 1996 年の法令第 675 号および以降の修正条項に基づき、私の個人情報を処理することを承認します。

お客様ご署名

Italjet S.P.A. の写し



Handwriting practice lines consisting of 10 sets of horizontal lines. Each set includes a solid top line, a dashed middle line, and a solid bottom line.

譲渡証書

日付 : 走行距離 (Km) :

車台番号 :

モデル :

エンジン
番号 :

署名者 : _____

お名前 : _____

ご住所 : _____

_____ 郵便番号 : _____

お電話番号 : _____

書き留めで、以下の住所にお送りください。

Italjet S.P.A. , Via dell'agricoltura, 2 - 40023 Castel Guelfo di Bologna (BO) - Italia

ITALJET S.P.A. および正規販売ネットワークは、アシスタンスサービスを提供する義務を遂行するために、1996 年の法令第 675 号および以降の修正条項に基づき、お客様の同意を得ることなくご購入者の個人情報を処理できます。

お客様

ITALJET S.P.A. に左記のお客様が、
以下のお客様に所有権を移譲した
こととお知らせします。

お名前 : _____

ご住所 : _____

郵便番号 : _____

お電話番号 : _____

保証書を含む『ユーザーマニュアル／
メンテナンスマニュアル』をお渡し
しました。

Italjet S.P.A. の写し



Handwriting practice lines consisting of multiple horizontal dashed lines for tracing and solid lines for writing.

以下に、定期メンテナンスの実施とクーポン（点検票）を記録してください。

クーポン		日付		走行距離 (Km)		お客様ご署名		ディーラー押印	
クーポン		日付		走行距離 (Km)		お客様ご署名		ディーラー押印	
クーポン		日付		走行距離 (Km)		お客様ご署名		ディーラー押印	
クーポン		日付		走行距離 (Km)		お客様ご署名		ディーラー押印	
クーポン		日付		走行距離 (Km)		お客様ご署名		ディーラー押印	
クーポン		日付		走行距離 (Km)		お客様ご署名		ディーラー押印	
クーポン		日付		走行距離 (Km)		お客様ご署名		ディーラー押印	
クーポン		日付		走行距離 (Km)		お客様ご署名		ディーラー押印	
クーポン		日付		走行距離 (Km)		お客様ご署名		ディーラー押印	
クーポン		日付		走行距離 (Km)		お客様ご署名		ディーラー押印	

メンテナンスが実施されたことを証明するため、レシートまたは領収書をクリップまたはホッチキスで留めてください。

ITALJET

Cod. 8351396 - Ed. 08/2021 - Rev. 01

DRAGSTER



日本輸入元
株式会社 MV AGUSTA JAPAN
〒437-1114 静岡県袋井市西同笠 387
URL : <https://italjet.jp/>